大正三年九月一日發行大正三年八月二十八日印刷納本
明治三十七年五月七日第三種郵便物認可（毎月一回一日發行）

第八巻 第拾壹號

標語

爾曹我を選ず我爾曹を選べり且爾曹をして往て實を結ばせ其實を存しめんが爲また爾曹の凡て我名に託て父に求ふ所の者を彼をして爾曹に賜らせんが爲に我爾曹を立たり

ヨハネデン一五〇一六

日本基督教女子青年會

目的

日本全國の諸學校及び市邑に於ける青年女子の間に基督教女子青年會を設立し其一致聯合を圖り以て萬國基督教女子青年會と連絡する事

左の事項を奬勵す

青年女子の間に基督教的智識を普及し之を導き基督耶蘇を救主として信奉せしむる事

青年女子の靈的生命を涵養し獻身的行爲を勵し其智識社交身體の發達を圖る事

青年女子をして萬國に基督の王國を擴張せしむる事

會友

基督教女子青年會未設の地或は學校に於て本會の主旨を贊助し事業を奬勵せんと欲する者を以て本會の會友とす

會友の種類及會費は左の如し

通常　年　金壹圓　維持　年　金貳圓以上

會友には本會機關雜誌「女子青年界」を送附す

會友たらんと欲する者は本會本部に申出べし

事業一班

巡廻訪問　本會幹事を派遣して支部を奬勵し或は地方の巡廻視察をなさしめ本會の發展を圖る

出張講演　廣く一般女子の需に應じて講師を派遣す

機關雜誌　月刊「女子青年界」を發行し靈性智識の資に供す

紹介部　一般女子のため諸般の紹介をなす

寄宿舍　東京市內に青年女子の爲監督寄宿舍の設備有り將來他の都市にも設立せん事を期す

宿泊所　外國婦人の要求に應じ併て日本の眞相を紹介す

夏季修養會　每年夏季山水明媚の勝地に開會し專ら女子の修養を圖る

旅行者の友　地方より上京する婦女子の保護を要する者の救濟保護に任ず

社會部　所屬幼稚園有り主として下級社會の幼兒を收容し且其家庭の傳道啓導につとむ

中央委員

委員長　井深花子

副委員長　岡見惠子

記錄書記　三谷民子

會計　井上友子

萬國基督教女子青年會同盟委員　河井道子

委員

津田梅子（東京）

エ、ビ、ウエスト（東京）

鈴木歌子（東京）

小此木松子（東京）

長谷川喜多子（東京）

サラ、エリス（東京）

イ、クレメント（東京）

山田千代子（横濱）

廣岡淺子（大阪）

ケー、トリストラム（大阪）

エム、エフ、デントン（京都）

佐伯小糸（京都）

松田道子（京都）

エス、ソール（神戸）

上代淑子（岡山）

幹事

總幹事（本部）　河井道子

同　（同）　エ、シー、マグドナルド

書記（同）　アール、レーガン

總幹事（東京）　エム、エル、マシウ

幹事（同）　シー、アール、ワトネ

特志幹事（同）　エム、ペーヂ

幹事（横濱）　久野ひさ子

事務員（本部）　河口正子

事務員（東京）　大呑久子

旅行者の友係　林ふさ　松崎滿喜

幼稚園主任保姆　大槻愛子

幼稚園取締　菅野田鶴

寄宿舍監（第一）　門倉ぶじ

寄宿舍監（第二）　大西絹子

宿泊所取締　ミス、ダルトン

東京市牛込區田町三丁目十二番地　日本基督教女子青年會本部

會説

第九回修養會と感謝

河井道子

第九回女子青年會夏期修養會も無事に終りましたが、這回の修養會では感謝すべき事が、如何にも數々御座いました。第一委員の出席者が少なかりしにも拘らず、是迄になく萬事穏かに甚しき困難も感ぜず、諸集會　組會　なども引締り、來會者間にも可なり親睦する餘裕もありました事で御座います。之は諸姉の祈禱と同情による事は勿論、それに來會者中の重立たる教師學生が責任を分擔してお助け下さいましたのによる事であります。是によつて私共は我女子青年會の眞意が漸次實現さるゝと思ふて、若き方々の活動を注目した次第であります。次は、若き方々が司會をするにも、祈禱感話をするにも、皆眞面目に嚴格に謙遜と柔和を以て之に當つた事であります。又幹部の者が願はざるに先ち、既に種々の用務を手傳ひ、或は寂しげに見ゆる來會者を慰問奬勵し、或は靜に有志を集めて協議祈禱などを導きし如き、何れも將來婦人社會の指導者が、我青年會を通して世に紹介さるゝ素地をなす所以と考へまして感謝を禁ずる事が出來ませんでした。第三は最も適當なる講師を與へられた事で、特に吉崎、横田、外村、

山田諸先生には單に聖書の組を擔任されしのみならず、何れの集會にも出席し、餘暇には個人的に指導敎示を與へられ、其他の講師諸先生は力ある講演と同情を以て敎導され、木岡氏の如きは二回迄も書面を以て奬勵を與へられ、森村氏は鄭寧なる挨拶狀を寄せられ、新渡戸氏は不慮の災厄にて岩手に入院中態々長文の電報を以て講演の要綱を申越され、笹尾氏は突然の依賴をも拒まず、豫定外に講演を快諾されたるなど、何れの方面よりするも感謝の外なき事でありました。

更に喜ぶべきは、求道者會に於て十人の信仰告白者を出した事であります。其他の姉妹方も假令會期中に告白せずとも必ずや救に入る日の近きを疑ひません、斯る好結果は決して一人や二人の力によらず全く神の御惠と、遠近の知友等の長き間の祈禱の結果でありまして、玆に私共は『祈つて倦まざるべし』の眞理を實驗するのであります。

又、修養會などに出席する者は、兎角、受くに急にして與ふるに疎なるものであります。然るに、幸にも有志者の相談によつて、修養會場たる旅館の女中のために特別集會を催し、讃美祈禱感話に聖書の話をなし、茶菓の饗さへありて、實に有益なる賜を受けたる事は欣喜且感謝に堪へない事であります私は今後毎年の修養會には是非此種の集會の計劃を忘れざらんやうにと決心すると共に、此の會を思付き萬事盡力されし諸姉妹方に深謝します。

若し、昨年の修養會と相異せし點を申せば、其一は今回は基督教主義以外の官公立諸學校よりの出席者多く、此等の姉妹が基督者としての困難及責任に就て報告――例ば水戸の女子師範、同高女、奈良高女師範、尾の道高女、福山高女、其他東京知名の高女等からの出席者が、其校内敎職員及生徒間に於て基督敎が如何に冷視され、或は信者としての立場の如何に困難なるかを述べて、一同の感動を深からしめ、一同は是等の學校の爲め敎職員生徒のために祈りて同情を表し互に其荷を分たん事を約して、信

者の交の一端を發揮し得たること。其二は、各青年會支部報告の際、僅に一時間以内に於て十三人の報告――即ち神戸女學院は昨秋の關西修養會、プール女學校は祈禱會と『女子青年界』購讀奬勵、ウルミナ女學校は良心箱、女子學院は佐渡の傳道、青山女學院は集會、青山女子手藝學校は九月より合併後の協同、女子英學塾は聖書の組と夏期の手紙傳道、共立女學校は感謝祭、フエリス女學校は婦人ホームへ古着寄附、宮城女學學校は校庭を市中の兒童遊戯のため解放せし事、盛岡女子青年會は一般の事、札幌女子青年會は聖書の組と夫々の報告を聞き、且翌日には芳尾千代子姉より横濱の事務員勤務女子狀態高田敏子姉より東京納戸町寄宿舍、岩田看護婦より三井病院、加藤貞子姉より奈良女師、高折かなを姉より福山高女、久野久子姉より横濱女子青年會、林房子姉より旅行者保護、大槻愛子姉より女子青年會にて新設せし好友幼稚園につき、猶ほ私よりは本部の事業一班につき、何れも短時間を利用して要點のみを報告したといふ事で、是は是非とも今後に於て誰人も倣ふべき所でありまして、此點に於て私共は確に良き練習をなしたと申して宜しいと思ふのであります。

然しながら、また同時に澤山の缺點もありまして今後大に改むべき點も少なからず發見せられたと存じます。即ち、來會者は今一層個人々々に講師や委員と親しみ互に意志を交換する機會を得べき筈と思ふ。幹事委員等は支部の指導者と協議して計劃方法方針等を助長すべきでしたが、是が意の如くなりませんでした事は、幾重にも御詫をせねばならぬ事であります。又た餘り旅館が滿員になりました爲に何れも靜な室がなく、靜思の時間も場所もなく、折角印象深き教を受けながらも、これに就て語り合ふ場合も祈る時も所もなかりしは如何にも遺憾な事で御座いました。之を思ふと一日も早く修養會に適當な場所と建物を與へられん事を願ふて止まないので御座います。又た海水浴には最便でしたが餘り界隈が

廣くないので散歩などにも適當な場所がなくて、自然家居する事が多くなり、從て運動は缺ける同時に間食などもあつたやうで、食慾の減つた方が多かつたやうに見受けた事は、將來大に改めねばならぬ點と思ふのであります。猶一は、高等女學校三四年程度の姉妹が、女學校の先生方と同席して聖書の組に學ぶといふ事は、互に遠慮があつて講師の方でも困難な場合がある譯と思はれますから、將來は其點を斟酌して更らに一二組を組織せねばならぬかと考へました。

以上は、今夏修養會に於ける私の所感の概要でありますが、全體から申せば實に感謝に滿ちた會合であつた事を斷定し得るので御座います。殊に誰しも人間として肉體を有する限りは、天候によりて或る程度までは支配せらるゝものでありまして、嚴寒でも酷暑でも苦痛なもので御座いますが、開會中は酷暑と思ひしは僅に一二日を過ぎずして、餘は實に結構なる天候打續き涼風肌に快く。一夕、海激し空嗔り、猛雨沛然、炎熱を洗ふたる後に、房州方面より此方の會場にまで打架けた色彩床しき虹影の如きは如何に自然の力の偉大にして微妙なるかを、心なきものにも感ぜしめ、彼の詩篇四十六篇を知らず〱口唱ましめ。來會者多きにつれて唯さへ暑氣に苦しきキャンプも込みに込みたる本館の室も常に嘻々の聲喧しく。賣店の姉妹方は暇さへあれば商賣に忙しく。海水浴を喜ぶものは濱に子供となりて打戯れ。扨は各組會の讃美の聲は戸外に溢れて淸き波海の彼方にまで傳へ渡り、大したる病人もなく、不行屆ながらも左したる不滿の訴も聞かず、互に同情と愛と滿足を以て一週日を修養に勤めたる、實に天佑人助の賜とや言ふの外はないと確く思ふのであります。玆に第九回修養會の上に給はりし御恩寵を感謝し尚ほ來會諸姉妹の上に來る一年間の祝福を仰き、明年の第十回修養會に於てまた相會し一入の御惠を同ふせん事は私共委員一同の今よりの祈つて止まない所であります。

第九回夏期修養會講演

開會の辭

委員長　井深花子

昨年の修養會が此處に開らかれたのは唯數月前の樣に思はれますが又此處に皆樣方に逢ふ事の出來た事を大變うれしく思ひます。此處に參りまして斯く賑々しく、御集りになつて居る此の有樣を見る丈でも滿足と感謝を、覺えずに居られません。始めて修養會と云ふものが開かれた時には、始めとしては人も多く集りましたが、此會が永續するか如何かと氣づかはれました。それは、大抵の會が始めは實によくて盛んであるが、後には何時となく廢くなるのが多い。又始めには先生が進めても遣るので、生徒も來る樣でありましたが、この生徒のみにて多く成つて居る集りが長く代表者を送る事が出來るかしらと掛念して居りましたのに、今年も又多勢の方が集り人が多いのみならず、年々進歩して行くのが見えて愉快に思ひます。これまでは年を取つた方が事務やその他の事を執つて居られたが、今年は年若な方々が、其の敏腕を揮つて居られるのであります。河井先生が勿論よく盡力をなさいますが、今年は年取れる人が少ないから、如何かと心配して居ましたに、案外な事には、年若き方々が汗を流してやつて居られるのを見て、此の會が眞に青年を以つて成れる會となつた事を思ひ喜しく思ひました。これを木に譬へれば、若木が段々根が深なると同じであります。よく一度行けばもう澤山と云ふ會がありますが、こ

の會は一度行けば、又次にも行かう、御小遣をためて置いても行かう。二年來た方は三年目にも又來ると云ふ有様で、今年は又學校以外の方々が多く來てお出でになつた様で、殊に御小供もある方がその御主人の御勸めにより出席されたと云ふは實に珍らしく感謝すべき事であります。

　私は今皆様を迎へると共に一寸希望を述べて置き度いと思ひます。「一年の計畫は元旦にあり」と云ふ語がありますが、元旦のみならず、明日から始まります此會には今晩が最も大切でありますから、何卒今晩用意をして戴き度いのであります。即ち折角講師の方が來て下さつても、其を受入れる畑が惡るければ無益であります。それ故今夜の此の會は用意の會であります。其の用意は即ち祈禱であります。

　祈禱の功力に付いて一事申しますが、米國の宗教家モーレー氏が英國に滯在中、大なる宗教復興が起りました。氏は病の爲ロンドンに保養して居られたのでありましたが、其の時或る小さい町端れに一人の病める老婦人が住で居て、體は不自由でしたが常に教會の爲にその一人の妹と共に盡して居りました此老婦人が米國にあつた宗教復興の事を聞き、如何にもして英國にも其の様な事があればいゝ、又米國の復興を起したモーレー氏が英國にも來たれかしと絶えず祈つて居りました。然るに或る日其の妹が教會に行き歸りて、今日の説教者はモーレー氏であつたと告げた。これを聞いた老婦人は大いに喜び、其の午後終日人々の交りを絶ち、一室に閉ぢ籠り神とのみ交つた。

　一方モーレー氏は依賴されて説教はしたが、余り其の聽衆の冷かさに不快を感じ、斷つて歸らうかと思つたが、夜の集りにもと云はれ約束をした事であるから仕方なく止まり、夜の集會にも出席した。處が朝の時とは雲泥の差にて、聽衆の目既に變り、其の歌ふ讃美歌も非常に力があつて神に達する様であつた。これにより氏は大變に勇氣づけられましたが説教終つて後キリストに從ひ度きものはと云はれた

時、信者、未信者にかぎらず、皆總立ちとなつた。又次に私と話したいと思ふ人と云はれた時も、皆立つたとの事であります。これがロンドンの大復興の始であります。其の源は唯一人の老婦人の祈りでありました。其故、すべて振はないと云ふのは畢竟自分等各々の祈りの足りない爲である事が分ります。

又、今度來たから次にも來ようと云ふのみならず靈に滿たされて歸つたら眞に立派な兵卒となり實を結ぼうと云ふ決心を得たいのであります。今晩特に祈り度い事は、私共の心の中にリバイバルがよび起され、よく用意された畑となり、十分受け入れる事の出來る事であります、又此修養會が實のある御靈にみちたものである樣に祈り度いのであります。

物理を學んだ方は御存知ですが、低き所にある石は働きをしませんが、高い處にある石を落せば大なる力を出して働くのであります。どうか私共もポテンシャルイナヂー（可能的勢力）を蓄へ、高く上げて働きたいと思ひます。信者の勢力を働きとして表はす時は大した働となります。この力を蓄へ寄せるものは祈より他にありません。或る英國の友人が『神學は感化力を與へず又感化する事もしない、唯祈禱のみ之を爲す』と云ひましたが、即ち祈る時は誰にも力が與へられるのであります。それ故今日は祈禱により一年の準備。一生の準備をしたいと思ひます。歡迎の辭に代へて一言希望を申上げました次第で御座います。

神の選民

山室軍平

扨本日は本年の修養會の始で御座いますから、其標語として擇ばれて居る約翰傳十五章十六節の『な

んぢら我を選す我なんぢらを選べり且爾曹をして往て實を結ばせ其の實を存しめん爲また爾曹の凡て我名に託て父に求ふ所の者を彼をして爾曹に賜らせんが爲に我なんぢらを立たり』と言ふ聖句に就いて申上て見やうと思ふ。

扨、聖書の中には『神の選民』とか或は『神に選まれし者』とか云ふ言葉が凡そ三つの意に用ゐられて居ります。第一はイスラエル人を指して言ひ、第二は基督を指して神に選まれし者と言つてある、第三は神に選まれし者は基督信者、即ち眞面目に神に從ふ者を指して言つてあります。それで、基督が此世に來られた大なる目的は何であつたかと申ますれば、只我等の罪の爲に十字架につき我等を導て來世の天國の幸を得させ樣といふ爲ではなく我々が此世にある間に我々を潔めまた我々に熱心に善事を行はしめる爲であつたので御座います。私は此の意味に於て提多書二章十四節の『キリスト我儕の爲に己の身を捨て給へり是我儕を諸の罪より贖ひ出し且己の爲に一つの民を潔め之をして熱心に善事を行はしめん爲なり』を大變に好んで居ります。之を英語で讀んで見ますと基督の死せるは我々の罪の爲のみでない我等は主に潔められて特殊の人民となつて熱心に善事をする爲であるといふ事が明に分るのであります。故に眞の信者は神によつて潔められて善き仕事を熱心に爲す者であるといふ事が分るのであります神の國が地上に出現すると言ふ事は此の樣な神に潔められて熱心に善事を行ふ人々が澤山に出來ると言ふ事なのであります。今此の大切なる開會の始に當つて私は此の『神の選民の資格』に就て何ヶ條かに分けて申上たいと思ふのであります。既に信者である方は勿論まだ未信者の方々も各自に引當て過去の自分は此等の事に適ふ樣な事をして居たかどうかと言ふ事をよく考へて戴きたいのであります。

第一。神の選民は此世に居るといふ事であります私共が此世に居ると言ふ事は確な事であるが、併し私共が世間の人と同一の世渡りをするといふのとは

意味が違ふ。私共は世に居る間は皆各自が爲す可き務を務めて、其上に神を信じて居るのでなければならないのであります。諺に『大隱は市に隱る』と申しますが、小さなつまらぬ隱者などは山に逃れたり世を捨てたりするが、大隱者になると決して其様な事はない、私共は神に救はれて信者になつたからと言つて世を逃れるのでなく、寧ろ暗い罪の世に在つて光となり暗を照さねばならぬ。我々は周圍が腐敗して居る其中に在て鹽とならねばならぬ。奥と云ふ人が此の意を酌んで『鹽となり光ともなる此世よりとり給へとは我も祈らず』と詠んだのであります。

有名なアンジエロと云ふ彫刻家は道傍に捨られて何の役にも立たぬと見えた石を拾つて美しい三人の天使を彫み出したといふ話である。我々も此世で世も益せず人に迷惑のみかけて居る様な事であるが、併し若し我々が一旦主の救に入れば罪に滿ちた心にも耶蘇は神に似た像を彫んで下さるのであります。

英國の女王ヴイクトリアが嘗て或製紙工場に行幸されて親しく製紙の狀況を見られた事があつた、西洋紙の事でありますから其の原料になる物には隨分汚ない木屑、襤褸等があつて、それが漸次に精練されて最後に見事な西洋紙に仕上られるのを御覽になつて大變に感心された。其翌日臨幸の御禮にとて其會社から一束の西洋紙を献上した所が其の紙は只見事な許りでなく、透き通れる其紙の中には女皇陛下の御姿が巧にすき込まれてあつたといふ事です。汚たない材料でも精練されると清い白い汚のない見事な紙に爲る許りでなく、一國の君主陛下の御姿さへも映し奉る事が出來る様になるのであります。我々の心中には時によると穢い汚れた感が宿る事もありますが、併し一旦悔改て神の御力が働けば總ての汚れを去つて清い透明無垢の美しい心になり神は聖靈によつて清き基督の御姿を我々の胸中に印して下さる。即ち我々神の選民は此世には居るが、併し救はれて境遇に支配されぬ俗世に超越した人間とならねばならぬのであります。

第二。神の選民は此世には住んで居るが而し此世を愛する者ではなく、假令、此世の名利榮譽等に目が着かぬ譯ではないとしても、其等は鏡に映る影の様なもので一瞬間にして消え去るものであるから、此等には執着もせず、また心も奪はれもせないのであります。彼の有名なるフランシス、ザビエルと云ふ宣教師は太閤秀吉の時代に日本に來て偉大なる働をして、彼の時代の人々に非常な印象を與へた人であります。彼は九州から京都に上るに、外國人であつて到底も其便宜がないので、或る大名の足輕になつて荷物を擔いだ程の苦痛を忍んで迄も傳道に熱心な人であつたが、斯る熱心なる宗教家を起した其の因はと申ますと、ザヒエルの青年時代の友人にロヨラといふ宗教上の豪傑があつて、此の二人が種々な事で逢ふ時も別れる時も、折さへあれば、ロヨラは馬可傳第八章卅六節にある『人もし全世界を得るとも其の生命を失はゞ何の益あらんや』と言ふ聖句を引いて常にザヒエルに警告した。後年に至つてザヒエルが此の句を充分に理解する時が來て。彼は『世の總てを失ふとも神もし我と共に在し給はゞ何かあらん』と言ふ確信を有するに至りました。あの時代に於てすらあれ程の感化を及ぼし得たと言ふのは實にザビエルに此の確信があつたからであります。西行法師が賴朝から貰らつた金の猫を子供に與へて少しも顧なかつたのも世に對して慾念が薄かつたからである。また或西洋の話に或有名なる學者の家に或人が食事の饗應に招かれた所が其の家の夫人が何もなくて御氣の毒で御座いますと言はれたが實際其の食事は馬鈴薯の煮たものがあつたに過なかつたので其人も此樣な有名な學者としては不相應な粗末な食事であると思ひました、所が其の夫人がまた言葉を繼いで言はるゝに『私の夫は學者になるのと樂な生活をするのと二つを共に取る事が出來ないと言ふ事を早く見抜きました、其でそれ以來は此樣な生活をして居ります』と言つたと云ふ事であります。我々は神の選民ともなり同時に此世の子ともなるといふ

事は到底出來ない事であります。我々には神の心に適ふ生活をして世俗的の生活を捨てる覺悟がなければなりません。昔話に或る母親が娘の結婚談に一方は金持であるが頭の足りぬ人と、頭は確であるが貧乏な人と二人より申込を受けたので其の選抜に何方でも行きたいと思ふ方に右なり左なり肩を拔いで見せよと申しましたら娘は同時に兩方の肩を拔いだと言ふ話がありますが、我々はさうは行かない、寶と神と二人の主に兼仕ふる事は出來ないのであります。

第三。神の選民は精神的にいへば世を捨てた人であります。昔のイスラエル人が埃及を出た樣に我々は罪の世を捨てゝ出ねばならないのであります。哥林多後書六章十六節に『又なんぢら彼等の中より出て此を離れ汚穢に捫ること勿れ我なんぢらを納ん』とある樣に身體は此世にあつても、世の人と同じ樣な罪は犯さないのであります。天路歷程のクリスチヤンが亡の町より出た樣に我々も世を離れて神と共に歩まねばならないのであります。救世軍にスワーカー少佐と云ふ無賴漢上りの大變に力ある傳道をする人があつて、或時、自分と同樣な罪の苦痛を嘗めて居る惡い人達に向つて『人がキリストを信ずると胸中に何も惡い事がなくなる』と言ふと其の場に居た無賴漢の一人が直に答へて言ふには『そんな事を言つたつて駄目ではないか若し私共の胸からわるい事を取れば空になつて倒れてしまふ』すると此のスワーカーが言ふには『いやさうではない神樣は惡い事を取つて仕舞ふと同時にまた神樣の靈を滿して下さる』と言つたさうであります。また救世軍の餘り敎育もない一女士官が、或所で證をして『若し人がキリストを信ぜば決して此世にあつても罪を犯さぬ樣になる』と話して居ると其の所に居た一人の紳士が此れをからかふて『そんな事は到底有るものではない靑い木に棲む虫は靑い色をして居る樣に我々は境遇に支配されぬと云ふ事は出來ぬ』と申ますと此の女士官は何と答へてよいか分りませんでしたが、暫く祈つてから申ますには『魚は海に住んで居るか

らとて其腹は鹽で一杯にはなつて居りません。神樣は年中海に居ても鹽一ばいの腹にはならぬ魚をお造りなさる事が出來るなら年中罪の世の中にあつても罪を犯さぬ人間を作り給ふ事が出來る筈で御座いませうと」答へたといふ事であります。(未完)

國家と基督教

牧師 小崎弘道

私は男子の夏期學校には始めから關係が深いので明治二十年以來去年まで一度も出ぬことなく校長にも三回ほどなり又講師にもなりました。然し女子青年會には一向御無沙汰して今度はじめて皆樣に御目にかゝる次第であります。實は本年は休もないので何處へも行かぬつもりで居りましたが、マクドナルド先生よりの御招きもあり、又女子青年會のには一度も出ぬ故都合して御約束をしました。

さて私の御話し度いことは國家とキリスト教との關係についてゞあります。キリスト教が始めてユダヤに起り遂にローマ帝國に入り次にヨーロッパ諸國に傳り今日では世界の主なる國々に傳つて居るが何づれの國に於ても始めに教の傳るによりて起る問題は國家と宗教の問題を如何にするかにあります、キリスト教の歷史に幾多迫害のあつたことは皆樣の知られたことですが、其迫害の十中の八九は國家の主權と宗教の主權の衝突から起つたもので決して宗教が嫌だからと云ふことで迫害は起らぬ。それで此の教が我國の爲になるか。又他の主權が保てるかと云ふことについて。一寸と考へた所では國家の主權と

宗教の主權の調和がとれぬので迫害が起る徒らにキリスト教が厭だから新しいからとて不正不義のものが反對したのではない。ローマにキリスト教が傳つてから大小三十四回の迫害がありましたその中にはネロ帝の如き暴虐のものもあつたが、而して賢明な皇帝と認められる方々が矢張りキリスト教をローマ帝國より追ひ拂はねば將來國家のためにならぬと云はれてかの有名なアントニアス。マーカスオレリアス等も皆かゝる考にて迫害をしたのであります、これは左もあるべきことでローマ皇帝は國家のみならず凡ての主權を持てるもので丁度神の如く考へられたものでありますのにキリスト教は神は天地萬有の支配者で我々は神の子神と父としてつかへ教師として尊敬し若し神の御旨ならば皇帝の命にてもそむくしキリストの命ならば皇帝の事をかへりみぬといふので、斯る教ではとても國家と兩立せぬと云ふ考が深くしみ込んだのであります。當時世界に行はれた他の宗教はローマで之を歡迎し他の教もまたローマ帝國と關係し得たのであります、然しキリスト教はローマ皇帝とても人である、神としては拜する事は出來ぬと云ふ、この點に於てあんな迫害をまねいだのであります。

是れはたゞローマ帝國のみならず日本に於ても最初天主教が傳はり一時盛になつたが、終に日本より追はれたのは確かにキリスト教は政治上或は國の主權者の自由になし得ぬことが原因になつたのであります。かの秀吉等の如きは人間を何とも思はず勝手に取扱ひ、自身の云ふ事は非も是、是も非で自己の意志の外天地間何も法則を許さぬ故臣下に一人にても秀吉以上のものを認める者は秀吉の氣に入らないのであります。丁度朝鮮征伐の時秀吉は九州に行つて居りましたが九州のある人秀吉の歡心を得やうとしてある人の娘を秀吉の妾にしやうとした然るにその娘は信者であつたもので之をきゝ入れません將軍でも天子樣でもかゝることを甘んじで受けることは出來ぬと云つて聽きませんでした。かゝる事實のた

め遂に迫害を起すやうになつたのであります。
また近世になつて一番迫害のひどかつたのはマタカスカル等に起つたことなのでそれも主權と宗教權との衝突であります。
政權。宗權。教權等の衝突は實に大切な、そして又面倒な問題であります。我國に於てもキリスト教が傳つてより常に反對して多くの人々が安心せぬのは如何にしてキリスト教と我が皇室と調和がとれるであらうか。我が國體とキリスト教とが如何にして併立することが出來るかとの問題であります。今も猶このことは心配して居るので六七年前加藤博士の『我國體とキリスト教』といふ本を著しキリスト教と國體とは兩立せぬ故他國にては適當するが日本には不適當であると云つてその理由をのべてありますがそれは皆昔ローマ帝國での迫害。秀吉等の反對。マダカスカルの反對。などゝ理由は皆同じことです
日本では　天皇陛下を以て主權の本體としてあります　天皇陛下の意志が日本の倫理道德の本源で天皇陛下の上に神をみとめるといふことは我が國體と合はないのである。といふこの本が出來てから種々の批評が出ましたが私も小さな本を出して之を批評しましたが一體この說は根本に於て考が間違つて居るのでこれは博士が理科學といふことに重きを置く唯物主義の論であります、故に天地宇宙には天地法則の理なく、凡て物質より起るといふ立場から見たのでその根本が誤りであります。もしも國體を絕對のものとしたならば理科學研究も存立せず凡ての學科の研究も成立たぬものであります。なぜとならばその學科に重きを置けばそれが皇室の上に立つやうになるのであります故にその研究をなすことが出來ないことになるではありませんか。故にこの說は根底に於て誤つて居るのです。この說を尊崇すれば倫理。政治。數學。物理等も皆成立せぬことになります。現に面白い事にはトルコにてはコーランを以て絕對の眞理として立てゝあります。故に理科學はその上に立つことが出來ません。十五六年前ある宣

教師があちらの學校で米國製の教科書を用ひましたのに監察官が之を見てコーランと異なる點あるを以て之に反對したといふこともあります又地理學に於て領地は年々減じてもトルコにてはコーランにあらはれて居る昔の通りの地圖を使用し盛大なりし時代のことを教ふるといふ有様であります實におかしいことでありますが更におかしいのはムハメットの皇帝は皆その名にHの字がつくのでこの字を人々は書くことが出來ない化學で水の符號 H_2O を教科書中には除くといふことがあるさうです、實に馬鹿々々しいことではありませんか。かゝる考は皆昔の幼稚な思想で文明の思想と兩立しません。學問は學問宗教は宗教。政治の下に理科も宗教も支配することは出來ませぬ。又なすべからざる事であります。元來政治は人間の行爲に現るゝ所のものを取締るもので、極端に云へば思想には關係しません。例へば物を盗まうと思つて居ても人を殺さうと思つて居てもそれを手段に現さないうちは刑法上の罪人とはなりません。然るに宗教の方ではさうではありません兄弟にむかつて痴者よと云ふものは兄弟を殺したと同様に罪があります。

元來宗教と政治とはその支配する所が違つて居るものであるのに幼稚な間はこの二者の間に區別がなく衝突を來したのであります。然し近頃でも博士とも云はれる人が屢此考に捉はれて居るものがあります。此様な事は常識で判斷する事の出來るもので主が『この事を智者と達者とに隱して赤子に顯し給ふを謝す』との御祈を深く感ずるのであります。この誤まつた思想が學者に依つて發表されると他のものも眞似して釣込まれるのであります。

今宗教と國家とを如何にするかといふ問題についてすべて三通の關係があります。

一、教國主義　これは一國は宗教が基で國家の法は末である故、國王も政治家も皆其命の下に働かねばならぬ、これは世界の歴史に於て古代ほどの國にても所謂教國主義でインドの如きは四族があつて

その區別が嚴であるが王樣も政治家もバラモン教の下に從はなければならない。エヂプトも其の歷史を見るに同じ。バビロン邊も同樣である。ユダヤ國などは始めは神聖政治であつた、後に教國政治になつて國王が出來たが最初は國王はなかつたダビデ王以來國王の勢力が增して來たが理想とする所は教國主義であつた後エス御自身が宗教と政治との區別をたてられたのであります馬太傳廿二章の十五節以下にある如くエスは『カイザルのものはカイザルに歸し神のものは神に歸すべし』と云ひたまふた。然しキリスト教がローマより逐はれてしかも遂にローマ帝國がキリスト教國となつて以來ロ！マ國家は衰へたそしてそのあとをついだのは教會で遂にローマ法王は國王の上に立つやうになつたオーガスチンの著書の中を見ると、特に明であるが彼の『天國の町』など見ても教會が主、國王は之に屬するものゝやうになつて居ります。教會が盛になるに從つて國王は遂に法王の臣下となるやうになつたこの事を實現するために努力したのはグレゴリー七世。インノセント三世、同七世などで獨逸のヘンリー四世の如きは法王の怒りにふれて宮城に召され悔改めを命ぜられて雪中に三日三夜立たされたことがあります。こんな有樣であつたのが新教が起りてローマ法王にそむいて以來教國主義の理想は實現し得ぬやうになつたが舊教では矢張りこの實現を一日も忘れないのであります。今日ではもうローマ教は漸次に衰へてフランス等にても政治と宗教とを分離させるやうになりました。ローマ教ばかりでなく近世起つたモルモン宗もこの宗の行はれて居る地方では米國の憲法と衝突する所があるので教の憲法を變じた點も多いが、併し教國主義であります即ち教長といふものが政治上の權力ばかりでなく其他すべてのことを管轄して居る、何處迄も教國主義であります其外近頃起つて間もなく亡びてしまつたアレキサンドルダウインのとなつたザイオン主義といふのもやはり教國主義でありました。

二、國教主義　之は國が主になつて教が之に屬ずるので國王が宗教の權と主權とを同時に握つて居るのでロシヤ。ドイツ。イギリス。スエデン。デンマルク。などは皆之に屬して居ります即ち國家が宗教を支配し管理して居るものであります。然し英國などでは近頃非國教派の勢力が漸次盛になつて來て統計の示す處によれば國教派と非國教派とはその數に於て殆ど半ばする程であります。が次第に國教が廢せられるやうな傾向があるので昨年私がロンドンに居た時などは國教廢止運動に對する反對の大運動があつて十五萬人位の人がハイドパーリに集つて反對演說會を開いたほどでありますが一般の趨勢は國教が次第に衰へて居ります。

三、宗教國家併立主義　これは米國佛國などに行はれ日本もこの方針であります。然し日本にては維新の後暫は祭政一致で　天皇陛下が國王と祭司とを兼ねたまふやうであつた。併しこれも長くはつゞかずそのあと曖昧主義が長くつゞいて明治二十二年の憲法發布の以來宗教の自由が認められてこゝに始めて日本は宗教と政治とか併立するやうになつたのでありますがそれも名のみでその實行の點に至つては殆ど駄目でありました、然し一昨年の三教會合同問題とか昨年の三教役者招待會などがあつて漸次にこの點にも進んで參りました。然しながら地末だ方に依てはキリスト教は日本の政治に合はぬとか又はキリスト者は不忠であるとか云ふ人はあるがそれは深く是等の點を考へないからであります。

それで今迄申上げた事をつゞめてみますと政權と宗教權の爭は如何に兩者は關係すべきかといふことがわからなかつたからで日本でも國體とキリスト教とが兩立せぬなど〵云ふのはこの二者の區別がわからないからであります。此二つの物を調和さすのに昔より三つの方法が起つた即ち教國主義。國教主義。宗教と政治の併立主義、であつて日本は今その第三によつて居るのであります。餘り雜駁ではありますが、これ丈け申上げて置きます。

國家を救ふの道

森村市左衛門

皆様今日は此の様に清い美しい會に御招き下さいまして誠に難有う御座います。幼年時代から貧乏な家に生れて殊に學問も何もない商人の私が皆様の前で講演などすると云ふ事は誠にをこがましく存ぜられますが時勢の進運に伴つて老人であるからと云つて引込んでばかりも居られませんので今日かく皆様の前に立ちました譯で御座います。

從て御話を致しますと申しましても學者の方の様に順序立てゝ御解りになる様に御話をする事は出來ませぬ、膝を交へて茶話をする積でお聞きを願たい扨此の日本の國が日に月に進歩して行くと云ふ事を見る事は誠に喜ぶ可き事でありますが而し今日の日本の獨立が長く保ち得る事が出來るか否やと云ふ事は御互に誠に懸念に堪ぬ次第であります。私共は維新前には隨分と及ばぬながら日本國の爲に心配も致しました。鐵砲をかついで奥州の山奥迄出掛けた者であります。維新後日本は國力も日に日に盛になるし、まあ〳〵安心と思ひましたが、それも束の間、年を經るに從つて或形式の文明は出來て來ました、併し近來に至つては日本魂はどこに行つたのであるかと叫ばざるを得ぬ様な狀態になつて來ました。維新前に共に國の爲に憂ひた板垣氏後藤氏なども日本は今の儘の狀態で行つてはならぬ、一大改革を要すると言つて居られます。大隈伯なども近頃の日本の狀態は幕末の時の様な氣がすると云て居られます。上に立つ政治家がどうかする、するだらう、私共が騷がずともどうかなるだらうと、我々が此まゝに一國の興敗を見過しにして行けば、一體日本の前途は

どうなる事でせう、私も及ばずながら種々の方面に手を盡して居ります。教育などに從事なさる方々には、どうか宗教を表面から生徒に强ゆる事は御出來になるまいが、其心を持て奬めて戴きたいと願ふて居ります。斯くして戴けば自然と生徒の心にも沁ずる事だらうと思ふ。實際宗教なき國民は亡びます。皆さんは既に宗教も信じて居られるし、殊に教育もあられる方々でありますから、今更申上ぐる迄もありませんが、國の興亡は國民の自治自覺に基くものであります。自分達の國は自分達が維持して行かねばならぬと云ふ熱烈な考が國民になければ其國は亡びてしまふ。昔のローマ、ギリシア等が興つたのも皆國民の此の自覺によつてゞある。今日の東洋の有樣を見て御覽なさい。トルコ以東シャム、安南、印度、支那、朝鮮等皆非常に困難なる有樣に陷つて、其中一二の國が辛じて體面を保つて居る有樣です。其中にあつて只日本丈が一國の體面を維持して居るのであります。私は維新と言ふ毎に其の聲をあげた四藩薩長土肥の人々を考へます、其の時に立つた人々は單に浪人、一介の青書生であつた、然し彼等の心中には如何しても日本を救はねばならぬと云ふ誠心があつた。然し此等憂國の士は決して急に出たのではない、長い間困難苦痛を堪え忍んで或者は獄にまで下され、或は死にさへ逢ふたが、然し眞に國を憂ふる後進の方が續いで出でゝ、自らを棄て世の爲社會の爲に一生懸命に盡した結果、終に維新の大業が成つたのである。日本がどうにかなるであらうと云ふ樣な考で居ては、眞に國家を維持して行く事は出來ない。國民が自覺して日本の隆盛になる樣に、滅亡せぬ樣に働かねば駄目である。私は密に思ふ。此年は東洋のみならず全世界にとつて容易ならぬ年である。大革命が起る年であらうと思ふ。今や軍隊には飛行機が出來て將來の戰爭に大なる革命を與へて居る。今目には見えないが世界の裏面には櫻島の樣な火が燃えてる。海嘯が押寄て來ようとして居る私共は箱舟を造つて置く必要がある。どうかなると

放つて置いては日本が進めぬ。世の爲世界の爲に自己を犠牲にして起たねばならぬ時である。益荒波が增して來て安樂にして居眠をしては居られぬ。呑氣な生活をして暮す樣な國民は、ハワイの土人かアイヌ人の樣に、形は我々と同じてあるが、靈もなく漸次に退歩してゴリラの樣になつてしまふのである。人類が此所まで進んで來たのには幾萬年懸つて居るか知らないが、併し人間から進んで神になると云ふ神樣の御理想に遠ざかつた、顔許りは人間の形を有つて居ても心のゴリラの樣な人間が多く居る所を見ると、餘りよくないだろふと思ふ。勿論、此の樣な人達には宗教の必要とか神樣の尊いと云ふ樣な事は分らぬ。先日私共は九州に傳道に行きました、私は宗教は不案内で、まだ何の教會にも行かず、何の牧師にも就て居りませんから、委しい事は存じませんが、多年聖書を讀んだり、また其他の書物等より眞の道を得んとして居りますが、實際世の人達はまだ眞の人間になり切つて居らぬと思ふ、もつと奮闘努力して眞の人間にならねばならぬと思ふ。浮々して居ると、またもとの猿に歸りはしまいか、ギユーリツク博士などの進化論を讀むと非常に面白い、西洋では進化論を唱へて居るが、日本では否東洋の歴史を見ると此と反對に退化の歴史である。數千年前の支那、印度は文明國として世界に誇り得可き形であつたが今の有樣は如何であらうか、此等は皆要するに眞の道即ち眞の神を認める事が出來なかつたからである。私は思ふ、西洋と東洋とは人間と云ふ種を蒔た二の畑の樣なものである、此を培ふ肥料が大變に異つて東洋では佛教儒教を以て、西洋は大部分基督教によつて養ふた、其の結果は今見る樣な實を結んだ譯である。

私は將來の世界は基督教になると思ふ。此宗教によらなければ地上に存在が出來ぬ樣になるであらうと思ふ。一體日本では基督教と云へば、何か外國の物の樣な氣がして居るが、基督教は決して東洋とか西洋とか言ふ樣に一區域に限られてる者ではありま

せん。否人間のみならず宇宙總てを司る一大勢力であります。此の勢力が即ち神樣である。此の理を平易に說いたのが即ち基督教であります。佛教は數千年以前に出來たので此の點までには至らなかつた。基督教起るに及んで人類に大なる好影響を與へたが併し人類はまだ今の狀態に滿足す可きものではないのであります。米國は基督教國であるが、併しまだ裁判所もある監獄巡査もある。此等のものがなくなつてしまはねば駄目である。未開國と文明國とを比較すると、罪人の數は文明國には少い、御恥かしい事であるが我國の罪人は、英國の三倍程もある、其他內務省で出來た國力の統計等を見ても物質上から見ても、まだ〳〵列强の比でない。人間を神樣の臣にまで引上ぐる宗教家も、また哲學者もない。けれども日本には斯る人物が皆無であるかと云ふに、決してさうではない。西洋ではお互に血を流し骨をけづつて努力し進步し向上して居つた間に、我々は三百年間も壓制し馬鹿にされて居た其の結果である。

今からでも一生懸命に努力して努めたら、決して西洋と肩を並て行けぬと云ふ事はない。先天的に西洋東洋と區別はない、神樣の御目から御覽になつたら西洋も東洋も同じ神の子である。自ら助ねば天は助けて下さらない。自ら信じて立たねば眞の救は得られぬのであります。八十年近くの實社界に於ける私自身の經驗からして決して自分は日本人は西洋人には劣つて居らぬと思ふ。また日本の婦人は三百年の間壓制に壓制を加へられ身體上にも精神上にも小さくなつて力業も何も出來ぬ樣になつてしまふたが、併し決して意志の力に於ても身體上にも學術にも男子に劣らぬ力があると思ふ。否、女子には男子以上に此等の能力がなければならぬと思ふ。男子は學校を出てからも實際に當つて、ます〳〵智識を得る事が出來る、併し女子は學校より家庭に這入ると、種々と家事の事に捉はれ智識を進める事が出來ない、從つて意志も弱る、併しそんな事ではいけぬ。學問に於ても修養に於ても女子は男子を壓服する樣にな

らねばならぬ。今日の所ではまた富を誇り位に誇る人々が多くある。けれども社會は種々なる方面より導いて行かねばならぬもので、今の所皆さんが學校を卒業すれば學校は卒業證書を與へる、成績がよいと褒美がある而し私共は斯る手段に氣を奪れて其の目的を蔑にしてはならぬ、學術の研究に熱中して卒業しても卒業證書などの事は忘れて居る位でなければならぬ。東洋の宗教が衰へて來た大なる原因は此の形式に捉はれて內容を握る事が出來なかつた點であらうと思ふ。田舍に歸つて墓參に行つて御覽なさい、袈裟を着た僧が來て鐘を叩く、經を讀む、賑かな事は丸で芝居の樣。我々の宗教は形式に捉はれては駄目である、直接に神に行かねばなりません。私は長らく種々の妨があつて、未だに充分に神樣を拜する事が出來ませんが、心が淸くなつて早く神を拜する事が出來る樣にと長らく祈つて居る。大阪の宮川先生が斯々して神を見たと言はれた事を聞て私は本當に美しい事だと思ふて居る。私は夢か現に神の御姿を見た眞の信仰があれば昔の奇跡などは今日もあり得る事であらうと思ふ。兄弟互に相爭ふなど云ふ事があるのも結局は此等の人々に眞の宗教がないからであります。

又た彼のオイケン、ベルグソンなどの樣に其の言論が重ぜられて外國にまで飜譯される樣な獨創的智識を有つ學者も、日本にはない譯ではありません。外國に其の名の知れてる人が少くない。我友野口米次郎君或は若宮鬼之助君また聖書研究の爲に近頃洋行された左近教授の如きは其の好適例であると思ひますが、併し概していへば此點に於ても大變に遲れて居るので諸外國と諸の點に於て肩を並べて立つのには、未だ餘程の進歩をせねばならぬ、殊に衰退し切つて居る東洋を起す大責任を有つて居る日本、其の日本を起す婦人方には充分に奮起して戴きたい。實に一國の盛衰は其の國の婦人の如何にあります。西洋でも國力の盛な國は必ず其の國の婦人が人格に於ても學問に於ても男子に劣らぬ位に進んで居る。

大學の在籍等を見ても十中の四までは女子が占めて居る。日本では漸く二三名の女子の方々が大學に這入られた位のものである。長い間壓制に壓制を加へられて、女子と言へば一階級も下の人間の樣に取扱はれた不名譽を取り返して男子と同等の位置、否其以上に進まふといふには、實にあなた方、日本の女子の方々の大努力大奮鬪に待つ所が甚だ多いのであります。元來、歷史を見ても日本の女子は始から虚弱無能の者ではなかつた、我日本の國では國を創め給ふたのは實に女子であつた。元龜天正の頃迄は女子にも隨分戰場に立つた豪傑も少なくなかつた。それが德川三百年間の壓制の結果、女と云へば弱い者役に立たぬ者と思はるゝ樣にして仕舞つたのであります。百姓が田に米を作るのに男の作つた米と女の作つた米とに質や價の差がありませうが、決してそんな事は御座いますまい。

此に依つても女子が男子より劣つては居らぬと云ふ事が分りませう、英國では數年前に一年に數名の女醫者が出來たと言つて大變に驚いたが今は一年間に何百人と云ふ程川來ます。また米國などでは教師などゝ云ふ職業は殆ど女子の職業の樣になつて居ります。また英國では近頃婦人が政治問題についても大分騷いでますが、私は此は當然起る可き事だと思て居る。將來日本でも女の議員だの裁判官などゝ云ふ者が必ず出來て來るだらうと思ふ。また信仰上の點から言つても女子は男子より素直で正しい淸い信仰を有つて、死に至るまで忠實であると云ふ樣な事が多い。先日 私 は九州で或婦人に逢ふた。所が其の婦人が云ふには私の娘はあなたの幼稚園で働いて居ります者ですが、隨分。信仰上の事で困んだ者でありますと云ふ話であつた。それは其の娘の夫と云ふのが、大變に基督教が嫌いで、教會にも出入を禁ぜられた、十餘年間も此の爲に祈つたか聽かれなかつた、のみならず、遂に四人も小供があるのに離縁された。其の婦人は其夜一晩泣いて神に祈つた、翌日其の夫に願ふて小供丈は他人の手にかけたくない

から、妻として置いてくれる事が出來ねば、下女としてなり乳母としてなり置いて呉れと願ふた。此れ丈は僅に許されて、かくして三年間を過したが夫も其の婦人の誠心に感じて遂に離縁を取消した。此の樣にして二十七年間も苦しい間に信仰生活を續けたが、信仰は益堅くなる許り漸次に夫をも感化してまだ信者にする事は出來ないが小供も自分も教會に行く事丈は默許されたと云ふ事である。婦人の信仰、婦人の操と云ふものは實に強いものであります。私共はどうしても此の信仰によつて將來の國民を造らねば駄目であります。日本が世界の一等國になるとならぬとは、實に日本の盛衰に關する事であります。併しいくら政治上に於てのみ世界の一等國となつても、國民に此の信仰心宗教心がなければ駄目であります。どうか、あなた方丈でも女子の責任の大なる事を覺えて身體を大切にし心を誠にし一國の幸福安寧は勿論一國の興敗は自らの肩にある事を覺えて修養されん事を祈ります。

信仰生活に於ける三つの要點

牧師 植村正久

此間から鵠沼の方にもう一つ似寄つた集會がある。その方で友人が羅馬書八章を説明して居つた。これは大變興味ある書でその内容は一朝一夕に説明し盡されないが其の中の三つの大切なる點が私の胸に響いて居る。八章の十四節に吾々は神の子供であると記し。三十七節に吾人は勝利を得て居る。勝を得て尚餘あり。即ち、われ〳〵は戰勝者であると記してある。又十二節に吾々は肉に對して負目を負ふ

て居ない。唯靈に對してのみで、これを煎じつめれば主エスに對して負目を負ふて居る、吾々は主エスの債務者である。これが私の云ふ三要點である。

路加傳の十五章を見れば放蕩息子の譬が書いてあるが、よく考へて見ると一軒の家には種々の者が居る、牛馬下女下男、又はかの總領息子の樣なものも次男の樣なものも居る、同じ屋敷内にも牛馬同樣の考へを有するものも居る、又よく働くが奉公人の仕事のみをして居るものがある、少し良いのは總領息子でこれも又淺薄な生活をして居る、勤直な奴である樣に見えたけれど直ぐにばけの皮が現はれた、やはり水くさい感心の出來ない心持で親の家に居たのである。次男の方は始は不心得で大變惡しかつたが後には大變孝行者になつた。吾々昔基督を信じない時には恰もその家の牛馬畜類、或ひは奉公人の如き者で家の深き事には關係なく唯御飯だけ炊いて居つた、又大きな家なれば其家の主人と顏を合す事もなくて來たのである。よし基督信者と云つても總領息子の如く感心の出來ないものかも知れない。然し眞實に悔改めキリストを信じこれに從ふならば、次男が悔ひ改めた後と同じて神の子である、神の子は神に從ひ、これを信じ、これに事へ、神の御心とよく合い、神の思召に全く贊成し、其の御計畫に全然魂を打込んで、これにあづかるやうになる、これが眞の神の子である、この事は、あなた方が約翰第一の書三章の第一節に記してあるやうに『いかばかりの愛ぞ』どうして斯く幸福なる身分の者となつたか、これ如何ばかりの愛ぞやと驚き怪しむ許りである。これは吾々が自分で良い處があり又自分がそれ丈の價値才能を有するから、それによつて斯くなつたものであるかと問へば決して然らず、抑々吾々が信仰したと云ふのは、吾々が神を選びしにあらず、神先づ吾々を選び給ふた、神を愛したのではない、神其の一人子耶蘇基督を下されし程に吾々を愛し給ふたのである。これにより吾々が又愛する樣になつた。要するに今日われ／＼が信仰する樣になり昔と違つた

有樣になつた。即ち昔は屋敷內の畜類同樣の者高くとも奉行人位 尙殊勝らしくしても總領息子位なものであつたに今日は神を愛し新らしき仕事を與へられた、神の御計畫にあづかりその仕事の御伴が出來る。如何にして斯うなつたか、これ皆神の方から、目星を付て手を運び順序を運んで來給ふた即ち神吾々を招き給ふたのである。そこでこの招に應じた者信じたものが義とせられ、榮光を與へられるのである。「今露れずと雖、其現れん時には必ず神に肖ん事を知る」(ヨハネ第一書三〇二)神の事は部屋住み同樣である然し將來に向て現るゝその時神に肖ん事を知る、神は吾々の知らぬ間に既に色々順序を運びて招き給ふのである。

ヘレンケラーの傳を結んで見るとケラー女史は生れながらに啞で盲目であつた、されど女史に附いて居つた敎師が丹精を盡して敎へた、又當人には何の字だか分らない時にも彼の女の掌に字を書いて敎へた。少しも女子自身に感じのない、その間に如何ばかりの無駄な骨折をしたかも知れない、然し自分の氣付かぬ骨折が實を結びて、後の發達驚くべきものがある、これは女子が自分で望み選んで來たのであるか、然らず彼女は親切なものにえらばれたのである、其の間にはどれ程の心使ひ親切、同情、慈愛がこの事に至らしめたのであろうか、同樣に產れてから此間如何な神の心盡しにより又神がどれ程手をはこんでこゝまで來られたか、吾々は選ばれたものである。吾々が神を選んだのでなく、神先づ吾々を選び給ふたのである、然かも神に選ばれた者は又戰勝者實に勝ち得たものである。既に耶蘇を信ずると云ふ事は世に向ひて戰爭をする事、眞に信ずるならば既に世に勝てる者である、其の理由は耶蘇によりて現はれて居る理想は世間普通とは違ひ、又耶蘇の十字架其獻身犧牲、神に事へる事、世の中の虛榮を物の數とも爲ない等、肉の慾、目の慾、人生の虛榮等に全く反對なるものが耶蘇である、其の敎訓、その事業其の精神凡てが世の中と反對である。昨日の暑

苦しい天氣と今日の凉しさとか違ふが其れより相違の著しきは耶蘇の心持と世間の心、又耶蘇の十字架と世間普通の思想或は現代思潮、風儀等である。此の反對な精神理想方針事業の現はれて居る者を見上げて、これを尊敬し崇拜する、又これに歸依し、全く自分の魂魄も自分の力も打ち込んで此れに從ひ、これに組する、既に斯る事をやつた者は普通の流儀習慣、流行等を蹂躙し、耶蘇の流儀になる、其の仲間に入つた者で、これ即ち勝利者である、此の内には非常な力があらはれて居る、大勝利である。吾々は現代に於て吾々の不信仰なる家族の中にあつて、色々のくだらない文學の流行し、肉の慾、眼の慾、生命の浮きたる虛榮、等の跋扈する世の中に於て、新らしき精神を發揮し、新らしき仕事をなして勝利を全うせんが爲、又益々勝利の旗を押立てゝ、前進せんが爲選ばれたのである、即ち斯る使命を有して居るそこで實に斯る大なる使命を與へられたる事が神の子供である證據である。又神の子耶蘇基督の弟子なるが爲、既に戰勝者である。されば吾々はいつくしめる耶蘇基督の廣大なる愛の意味又其の仕事の深き意味、其れを心に深く會得するこれを嚙みわける、これを信仰し適宜に消化する、かくなすによつて吾々は凡てのものに勝ち得て餘りがある。吾々は決して敗北し、閉口し、衰退するために選ばれたのではない、勝ち慢り凱歌を奏する爲、選を受けたものである、凡そ人間は皆、自分の身分を考へねばならぬ。同樣に吾々は神の子供、而して主耶蘇を愛するにより、其の愛が吾々の心に起るにより凡てのものを征伐しこれに勝ち、社會にも朋友の間にもこの勝利の旗をおし立てゝ向ふ處敵なし。意氣沮喪し降服する、そんなものゝ爲に選ばれたのでない、もつと大なる使命を有するものであるから、御互に其の光榮ある身分を考へねばならぬ、父の事であるぞと云ふ確信を有すべきである。

　汝等唱へられて神の子なりこれ如何ばかりの愛ぞ吾々は勝ちほこるべき勝利者、これ信仰あるべき者

の本領、身分、特徴である。諸孃は世の光、地の鹽である。如何に今夕の會に集まられた方が弱く、其の無能を感じて居られても、弱さに於て誇るべし。吾々の力は弱さに於て全くせられるのである。畢竟、吾々は神の子であると云ふ處から『汝等我を選ばず吾汝を選べり』

斯くの如く御召出しを蒙り、目星をつけられて大勢の内から少數のものが選ばれた、即ち六千萬の同胞の内から吾々は選抜されたこれ如何ばかりの愛ぞ確かに吾々は耶蘇に對して借金がある、諸孃は一人〳〵債務者である、ポーロ曰く『吾はギリシヤ人及異邦人、また智人及愚人にも負へる所あり』(羅馬一〇十四）と云つた、彼れは常に心中に大いなる救を受け招かれたと云ふ考へを持つて居た。吾々もこの身分を與へられた處から、各債務を負ふて居る、返さねばならぬ借金を負ふて居る、即ち基督を愛し衆に卓越して行くべき債務がある。これからは己の爲に生きず神の爲に生きる、凡てを神に捧げる債務を負ふて居る、此の日本の家庭、信仰無き親、基督を知らぬ朋友、世の惡習慣に染める現代、信仰を有せざる夫等に大いに債務を負ふて居る、吾はギリシヤ人ユダヤ人にも負へる處あり、あなた方は周圍の者に對して、自分の國、自分の家、自分の學校等に對して債務がある、又忘れまじきは自分に對する債務である。此の主義を貫き、神の子の互になすべき使命、この精神的の身分、神の子たるの眞面目これに對して債務がある。これを耕しこれを培養し、これを高進せしめ、而して心の中に主耶蘇の姿を益々鮮明に發揮する樣骨を折らねばならぬ。時も寶も愛も情も才も力も凡てを主耶蘇の喜び給ふように整へ置き、喜び給ふ時に出して捧げる、これが吾々各自の債務である。

今日は此處におられるが、明日は歸られるであろうが其の前にこの格言をもう一度考へ、神の子としての戰勝者、戰ひ勝つべき子供なる事を深く思ひ。而して昔の流儀、昔の癖、肉情等に對しては義理も

なく是等と絶縁し、負へる債務を眞に全ふせん事を誓ふ、ペテンテコステの時に弟子達が聖霊に感じた様に、此處に居る百幾十人かが債務者として眞面目に一身上の事を整理して出かける心持になつて戴き度い。これに就いて舊約エスのテルの處を讀まれん事を望む。

福音の力

笹尾粂太郎

紀元五十八年と云へば、今より二千年の昔。春の朝風光美しい哥林多の港の埠頭から一艘の船が將にローマに向つて出帆せんと準備をして居ります。多くの乘客の見送人が混雜をして居る中に質朴な一人の婦人が埠頭を見渡して彼を見送る一人の友を求めて居ります。暫すると之も質素な服裝をした風采の揚らぬ然し眼光の鋭い一人の傳道師が來ました。彼はその衣の下より一つの卷物を出して彼の婦人に渡しました。この婦人こそ今將にローマに行かうとして居るケンクリアの教會の女執事フイベで男子は宗教界の偉人我等の敬愛する聖ポーロであります。卷物は今日我々の基督教を理解するに最も必要な羅馬書であります。フイベの懷中に入れられた、この一つの卷物は將來の基督教をローマに持つて行つたといつても過言ではありますまい。ポーロの渡した卷物の中には彼が實驗によりて得たる基督教の眞理を述べてある。これを懷にせるフイベは實に將來の基督教をローマ帝國に持つて行つたのであります。

何故にポーロは書をフイベに賴みて、前以て之をローマに送つたのでせうか。これポーロがローマ帝

國を基督にさゝげやうとした多年の望のためにローマ帝國の中心なるローマに行かうとしましたが、この事は基督教の將來にとつて大切なる問題である故に、行くに先つて自分の今日まで信仰し傳道し實驗して得たる眞理をローマに行く前に、ローマにある基督教會の人々に告げたのであります。彼が信じ實驗して得た眞理とは羅馬書の中を讀めば分るが、その眼目となるは羅馬書第一章十六、十七節『我は福音を耻とせず此の福音はユダヤ人を始めギリシャ人すべて信ずる者を救んとの神の大能たれば也。神の義は此に顯れて信仰より信仰に至れり錄して義人は信仰に由りて生くべしと有が如し。』即ち彼は信仰し傳道し實驗して得たる眞理は如何なるものなるかを傳へんとする偉大なる使命と希望とを云ひ送つたのであります。彼がガラテヤ。アジア。マケドニア。に傳道した實驗より得た基督教の眞理とは、一言すれば福音の力であります。この福音の力を堅く實驗したからこそ、ポーロは當時ローマ帝國には學者智者が多く、殊にセネカの如き當時の學者を壓する哲人の前にキリストの福音を宣ぶるを耻としないといふことを前以て云ひ送つたのであります。

彼の實驗して得た福音の力とは即ち天地萬物を造り之を支配したまふ神の偉大なる力をキリストを通じて信じ疑ふべからざる眞理を福音によりてあらはして居る。一體宇宙萬物が皆偉大なる靈の力を表して居ることはギリシャの學者さへも云つたことである。近頃の學者の言葉を借て云へば宇宙は生ける神の生ける衣であるといふことは其の時のギリシャに於ても既に行はれた思想であるが、かく哲人が神を讃たとは違つて、ポーロが逃べやうとしたのは更に偉大なる神の御力である。天地萬物を造り之を通してその力を現はし給ふのみでなく最も尊き靈の力を五尺の身體に宿し給ひしことであります。賤が伏屋に住む人も大厦高樓に住む人にも等しく與へたまふ靈。それに奇しき働をなさしめたまふ神なりと信じそして傳道によりて實驗し得たのであります。

故に我等は五尺の身體の中に全世界よりも尊き或ものを宿して居るのでありまして、その人格に大なる感化を與へ偉大なる働を與へたまふ神は、主によりてあらはされて居つて、天地萬物のみならず人の靈を生し救ひ清めたまふ大なる福音なる事を實驗によりて說いたのであります。ポーロがかゝる確信を以て如何なる人の前にも述べ傳へんとした神は、今もなほ生きて居たまふ。我等が眞面目なる信仰生活を送るならば我等の靈の上に大なる力を及ぼすのであります。

傳道はたゞ牧師傳道師ばかりがするのではありません、皆樣即ち青年會の方々もさうであります。又多くの人が信ずる神を傳へる精神に感じその神を見出さうとしてこゝに來て居られる方も、亦さうであります。我等は傳道しなくてはなりません。しかし傳道して屢々失望することがあります。或人を基督に導かうとして祈り、又心を盡しても其効果の擧らないこともあります。ポーロが困難と戰ひつゝ傳道して一年二年三年と經ても一人の信者さへも出來なかつたことがありましたが、信じて疑はないで傳道して居た間に大なる力が現れ、人の知らぬ時に神は靈をとらへ神御自身に大なる働をなさしめたまふたのであります。

私が山口の高等中學に在學中、今より二十年位前のことですが學校に信者は私一人でありました。東京帝國大學の青年會のことを聞き山口にも青年會を設けやうとして傳道しましたが一人の信者を造ることも出來なかつたばかりでなく、神のことをさへ云へば迫害が中々烈しかつたのでしてた。それで仕方なく山口の敎會の信者を或山に招いて、こゝで青年會の規則書をよみ開會式を行ひました。然し會員は私一人でありました。後八年振に山口に行つて見ました處が、牧師の宅に私を待つて居た數名の學生が、私に青年のために講話をして吳れとのことでした。聞けばこの人々は學校の青年會員で現今學校には五十人餘りの會員があるといふことでした。殊に其時代の迫害隊長とも云ふべき人が、或夏休に旅行して岡山に行き孤兒院を尋ねたさうです。丁度その時院長の石井氏も孤兒も居らず、裏の墓場に居るとのことで、其處へ行つて見ると一同地に伏して神に祈つて居るのでした「我等は大人故二三日の食はなくてもよけれども此の世の父を失へる小兒等にどうぞ食を與へて下さい」と。其友は之を聞いて、今迄一度もこんな眞面目な祈を神に捧げて居るのを聞いたことがなかつたので、大に感じ、石井氏の立つのを待つて話を願つた。石井氏も大層喜んで、共にかへつた處が、奥より夫人が

出て來られて「今この手紙が來ました神が食を與へて下さいました」と云つて百圓の爲替を渡しました。石井氏は顧みて我等の信ずる基督教は斯の如きものです。世の父母は自分の罪のため子を棄るのに基督教信者は世の父母に勝る天の父を信ずるのです。天の父は世の父母の棄てし子を見棄て給はない。この信仰の上にこの孤兒を養ふ事業をなすのでありますと。此話を聞いて、其人は大に喜んで山口に歸り、次の日曜日に教會に行き遂に悔改めたのであります。かくて八年を經過した後には茲に有力なるキリスト教靑年會が出來たのであります。

ポーロの信じたのは傳道して實驗して得た神の力であります。彼の手紙を見れば彼が色々の教會の人々、愛せる傳道者、弟子達のために祈つて居ることが多くあります。殆どポーロの言葉全體が祈なのであります。

ポーロの書翰を見るとポーロの實驗したのは、力ある神は我等の祈禱を聽きたまふといふことであります。我等の信ずる神は祈禱を聽きたまふ神であります。

私が獨逸のハレで勉强して居た時、和蘭より來て居るサムエル、ショックといふ怜悧なそして溫和な學生と親しくなりました。夏休前になると、彼は是非和蘭の家へ遊びに來るやうにと云つて勸めました。彼は常に自分の家の事を話さないので、私は少しも知らなかつたのですが、その家はプスムといふ小村で、アムステルダムの附近でした。そして父君は陸軍少將で、アムステルダム要塞司令長官でありました。行つて見ると、この家は教育の行屆いた平和な家庭で、二三週間樂く暮しました。丁度獨逸に歸る前夜、六十位の老人なるその母君は私を呼んで「子供達は貴君に何か御土産を拵へて居ります、私は物質でなく經驗した一つのことを御話して、御土産に上げたいと思ひます、これを持ちかへられて傳導の時に又家庭をつくられる時に思ひ出されたい」と眞面目な顏で話されました。それは、「私は幼少から神を信じて居りました、長男が生れた時此の尊き神より與へられた人を育てるのには到底も人間の力のみではなし得られぬ、神と共にと決心しその晩よりその子の爲に祈りました。斯て十七八歳になつて大學に入れました。入學式のある日に私は長男を呼んで、お前は今日から大學生であるから一人前の紳士として取扱ふ積です、それで二つの鍵をあづけて置きます、一つは玄關の鍵他は部屋の鍵。故にこの二つさへ持つて居れば自由に出入して如何に遲く歸つても差支ありませんが、然し母の一つの願があります。私はお前に幼時の時から祈を教へ、夜臥床に入る時は必ず共に祈りました。この習慣丈は續けたいから如何に夜遲くなつても構はぬ故母を起して共に祈つて床に就くやうにせよ。と云ひますと長男は嚴なる感を抱いて之を誓ひました。私はこの子を神に捧げ活ける神と共に養ひ育てたのです祈つて大學に入れました。元來私の家は禁酒會員ではありませんが、長男は在學中、二度遲く歸りまして、私を起し祈を捧げたけれど一度でもアルコールの匂のしたことはありませんでした。貴君が日本へ歸られたなら、人間の眼の屆かぬ所。世

の父母の目の及ばぬ所。最愛の子が暗き部屋に一人ある時、不思議な力で我等の靈を守り給ふ神を日本人に傳へて下さい。これ私の土產であります」といふのでありました。

我々の神は、祈を聽きたまふ神であります。一人暗き部屋にある時、私共の靈を淸く守りたまふ神であります。これはポーロは傳へた神であります。淫亂な生涯を送つた羅馬人が一變して美しき生涯を送るやうになつたのを見ても知られる。信ずる神は力あり。神は祈を聽きたまふ。セネカ何人ぞ、ネロ何人ぞ、猛烈なる力を以て基督教徒を鏖しにしてもこの神の力を傳へないでは居られないとの手紙であつたのであります。

又ポーロの信ずる神は義の神であります。これは神學者の云ふ如き抽象的のものではありません。彼が傳道して實驗して得た一大眞理は見えざる所に神ありて、人の靈を義とせられ、罪人を正しくせらるゝのであります。皆樣方に向つて罪人を正しくする神などゝ云へば當らないといふ方もありませう。私は罪は犯さぬといふ人が多い。併し罪とは何であるか。獄に入れられるもののみが罪人ではありません獨逸の學者ヘルマン氏の書いた「基督教倫理學」を讀むと、人間は何時の頃よりか動物の生涯より別れたと同時に、爲す可からざる事と爲す可き事とを判斷する力を與へられた、それで之は爲す可からざること即ち惡であるといふことを銳く感ずるのでそれ以來人間には止まざる戰があります、これ即ち動物の生涯より別れて善惡の判斷する事の出來る人間の生活に入らふとする戰であります。この善惡の非常なる戰に敗北する時は罪人である。如何なる時に敗けるかと云ふに、我々の心の中にある動物的性質が勢を得て向上發達せんとして戰へる心の中の叫びを壓へつけて、動物的性欲の蔓り來る時に罪を犯すのであります。一應羅馬書一章の後半を讀んで御覽なさい。動物的生活より別れてこの美しき叫に耳を傾けて行くべき人間が動物的生涯に復つたばかりでなく、動物にも劣つた生涯を送るやうになる、これ即ち罪であります。

ジャンバールリヒテルに神は如何なるものであるかと聞いた時、彼は襟を正して「神は汝等のために心の奥底に溜息をしたまふものである」と答へたと云ひます。我等はどうしても向上の心がなくてはなりません。

先日、用事があつて山形に行きました。私は大抵は赤切符で行く事に定めて居ります。三等客の中にも時に中々偉い人があります。丁度同車の一人の百姓が廿年前の大蛇退治の話をし皆が恐しがつて居ました處が、六七十の老人が之を聞いて云ひますのに實に大蛇も恐しいが、世には尙恐しいものがある。それは人間といふ動物、これは實に恐しいもので、先日まで金モールをつけて居た海軍の將士があんな惡いことをして　天皇陛下にまでも御心配をかけるそれに引換へてあの荷車を挽いてる牛を見なさい、あれは皆殺されに行くのだが、口こそ利かぬが人の食物となることを觀念して大人しくして居る、日本の役人の中にはあれより劣つた人があると云つて居ました。それを聞いてカーライルのサーター、レザータスの中の言葉を思ひ出しました。人間程恐しいものはない。嫉み、怒りの鋭き毒牙を持つて居る、これを持てる故、凡ての動物より恐しいと云つて居る。静かに自分の生涯を考へて見るに、父母の前、友の前、神の前に爲すまじき事をした覺は誰もある事と思ひます。あらゆる宗教、否人類の歴史。人間が眞面目になりし瞬間には、かゝる動物に劣る生涯を去り、清き人間となり、一段高所に着眼して正しき人とならうと思ふ、それで宗教倫理道德は起り、法則（ユダヤ教の如き）が起り、それによりて義とせられたいと思ふ。聖人が造つた法則を守つて義人とならふとした人に使徒ポーロの右に出るものはない。けれど實驗によつて見ればどうしても之によりて義とせられることは出來ない。それは不思議な事ながら人間には「この事をなせば罪なり」といふことを書いたものを讀むと却つて之を犯して見たくなるといふ惡の心がある。或青年が基督教は神を賴る

宗教である、自分は克己を以て修養しやうと思ふと云つて、聖書をも研究せず、神にも賴らなかつた。そして每朝今日は此事丈は爲すまいと書いて見ると却つて其が爲たくなる遂に堪らなくなつて聖書の研究に來たものがありました。

基督教は律法を守つて義とせらるゝのでなく、神を信ずるのです。そして神が守り給ふて大なる力を與へ給ふ。これに信賴する事に因て大なる力を與へ給ふ。ポーロはそれを實驗したのであります。福音の力は人を義とする力である。故に彼は之を羅馬人に傳へんとしたのであります。

この事は使徒ポーロのみならず、我々も神に信賴し眞面目な生活を送れば之を實驗せらるゝのであります。かの不良少年の多くは眞に親の愛に觸れたことのないものださうです。私が東北學院の普通科の敎育に從事して居た時、或日一人の農夫が學校に來て『私は何某の親でありますが伜は勉强して居りますか』私は『よく勉强して居られますから安心なさい』と云つて歸しました。二三日過ぎて、その生徒が私の許へ來た時『君は勉强して居ますか』と聞くと、其生徒は默つて涙を流して居りましたが、やがて頭を上げて『先生私は勉强して居ます、父は私の爲に働いて苦しい中から學資を送つて呉るのです私は勉强せずには居られません』と云ひました。

宗教は人情の粹であります。私共が天の父と信ずる神は、眞に我々を愛せられ御愛心を以て吾心を抑へられる時、我々は惡をなすことが出來ませんのであります。我々基督教徒が神の愛に感じ偉大なる力にたよる時は如何なる大なる事も出來ます。マルチン、ルーテルが世界の主權者の前に立ちて宗教改革を論ずる時、每朝基督の前に跪づいて神に御力を願つたと云ひます。神は力の神であります。救ひたまふ神であります。故に信賴する事が出來るのであります。

神は我々罪人のために基督を十字架に付かしめたまうた。基督教は十字架の力の宗教であります。十

字架を仰ぐ時、神が如何に人類の罪を憎み、罪人なる人類を救はうとして心を盡し給へるかを知る事が出來る。人間の罪は如何に強くても神の愛は之に勝ち給ふ。人間の罪は主耶蘇を十字架につけたが、然し十字架を仰ぐ者は非常な力を與られる。第一に懺悔の力である。我々の如き罪人の救の爲に懸り給ふたカルバリ山上の十字架のみならず、主の十字架の御生涯を見ては懺悔しないでは居られない。此懺悔の力が大いのであります。

仙臺の基督敎青年會寄宿舍の舍生の一人が或日來て今日から信者になりたいと云ふので、段々話を聞いて見ると「私は信者の團體の中に居て感じたことが多いが、今朝ほど感じた事はありません、それは舍生が昨夜議論が嵩じて、とう〱爭が始まつた、その結果互に罵詈讒謗しました、今朝いつもの通り家族の禮拜に集つたが司會者が讃美歌を開かうとして開くことが出來ず、大の男が涙を流して「我々は主を信ずるものであるのに昨夜の樣なことをしました、あれはすべて私が惡かつたのであります。どうか許して下さい」と云ひますと次の人も次の人も皆同じことを繰返して同じく自分の罪を悔い却つて喜に滿されて、讃美歌を歌ふたのを見ました、信者の團體は力のあるものであります、懺悔の生涯は實に力のあふれたるものであります、耶蘇の十字架を思ふ人はこんな小さな事にも悔いるといふことを感じたので、直ちに基督敎に入らふとしたのである」と話しました。

又或靑年が信者になつた動機として話したことは、嘗て或學校に居た時、一人の基督者が居たその人は溫和な人であるのに信者である爲に憎まれ到頭或時袋叩にされた、散々打つて皆が去る時その人は立ち上つて嫣然と笑つたのを見た、その靑年は引返してその理由を聞いた處が、その友のいふには、私は基督敎信者なるが故にこんな迫害を受けるが、主耶蘇は我々のため十字架上の苦を忍び給ふたと思ひ至つた時、今迄苦しかつた身體は少しの苦をも感じないやうになり、思はずほゝ笑んだのでしたと答へたのを聞いて感心し、それより基督敎に入るやうになつたとのことです。

皆樣の生活に於ても同樣であります。十字架を仰ぐ生涯。即ち力ある生涯は、懺悔の生活、忍耐の生活、敵を愛する生活、であります。ポーロが確信して實驗して基督敎は神の力である、神が人を義とし給ふ力であるといふことを述べ傳へんと羅馬書を認め、フイベに托して羅馬に持ち行かしめ、將來のローマの基督敎の土臺を据たのであります。今日使徒ポーロは書いた手紙を渡さないが彼は屹度皆樣に生ける基督の手紙を御渡して居るでせう。どうか之を大切に持ち歸らるることを希望するのであります。悔改によつて得た清き美しき心が自分の凉しき清き眼に映じ、又親切を現し得る手によつて現はるゝのであります。皆樣の活ける心。活ける眼。活ける手指に書きつけられた基督の御手紙を持ちかへられんことを希望します。私は自分が立派なものである故にかく云ふのではありません、私の如きものも活ける手紙となつて主の爲に働たいと思ふのであります

實を結ぶ修養

吉崎彦一

私は此修養會の標語として選ばれました聖句。約翰傳十五章十六節の『なんぢら我を選ばず我汝等を選べり且汝等をして往て實を結ばせ其實を存ぜしめんが爲め又汝等の凡て我名によりて父に求むる所の者を彼をして汝等に賜はらせんが爲に我汝等を立てたり』によりまして『實を結ぶ修養』といふ事をお話したいと存じます。凡て耶蘇の敎訓の眞意を解するには其場合と目的と又如何なる人々を目標として敎へられたるやといふことを先づ第一に考へなければなりません、此言は說明する迄もなく耶蘇の最後の告別說話の一節をなすものであつて、其目的とせらるゝ所は後に遣さるゝ弟子等の慰安であります、乍併慰安と申しましても決してエフエミニート的のものでもなく又消極的觀念を主となすものでもありません、肉體となつて地上に寓り給ふた神の獨子と別るゝにあたり、弟子等に取りまして最も緊要なるものは其主たる者、其師たる者の聖命を奉じて往き、往きて世に勝たんが爲に要する人格の能力でありました、聖足の跡を踏んで病める者を醫し、惡鬼に捕はれたる者を縱ち、貧き者に天來の福音を聞かせ、以て神國の擴張、人類社會の福祉の增進を計ることも必要であります、山に、湖に、會堂に、或は家の中に淳々と敎へられたる幾多の訓誡を冥想熟考することをも忘れてはなりません。然しながら主に選ばれ主より訓練を受け而して主によりて又主の爲に遣はさるゝ彼等に取りまして、瞬時も缺くべからざるものは『我は世の終まで汝等と偕に在り』との活基督の不斷的臨在の最も明確なる自覺であります『汝等われを離るゝ時は何事をも行し能はざれば也』約翰（十五〇五）とは唯に基督と弟子等の關係の眞相を示せる語のみならず、又弟子及使徒をしての彼等が成功の秘訣の那邊にあるやを表はしたもので

あります。基督の不斷的臨在——茲に彼等が慰安の方法も亦其出所をも吾等は探り索めなければなりません、次に修養會の格言として擇ばれたる此聖言は傳道者として遣はさるべきデスチニーの確定された弟子等の爲に語られたのであります此所に御集りの姉妹等の中に或は我は傳道を以て生涯の目的となすものではない、我は一個の基督信徒である、故に特に使徒慰安の目的を以て語られたる此言は修養會の目的に適して居ないと今現に自問自答して居らるゝ方はないとも限りません、乍併基督者各自の胸中に恒に又熾んに傳道の火が燃へて居らなければなりません、基督敎會の存在の理由は『時を得るも時を得ざるも勵みて道を宣傳るにある、敎會は社會人心の秩序を保つ爲めのみの警察權でもなければ、又單に道德律を暗誦する爲に設けられた場所でもない』と或る米國の一監督はいふたことがあります、吾等の信仰生活をして常に動的ならしむるものは實に彼の聖保羅の一生を張りし所の『我はギリシヤ人及異邦人また智人および愚人にも負へる所あり……我は福音を恥とせずそは此福音は猶太人を始ギリシヤ人すべて信ずる者を救はんとの神の大能たれば也』(羅一〇十四十六)『我福音を宣傳ると雖も誇るべき所なし已を得ざるなり若しわれ福音と宣傳へすれば實に禍なり』(哥前九〇十六)との言であつて其中に秘れたる精神は亦私共各自の信仰生涯を貫徹して居なければなりません。傳道は必ずして敎壇にのみ限られて居りません私共の日常生活は傳道の最善方法といふも敢て過言でないと思ます。彼のアシヽの聖フランシスであつたと思ひます、彼はある時其弟子を伴ふて自分の住んで居た邑を一周して歸宅しました、弟子の一人其師に『何故先生が說敎せられませんでしたか』と尋ねた時に聖フランシスは徐ろに起つて『我が日常の步行は是れ即ち我が說敎なり』との意を答へられたといふ事であります、然らば主耶蘇が私共各自を小さいながらも苟も實を結ぶに足る所の使徒を見給ふて、此聖句を語られたことゝして、今よ

り其講解の歩を進めて行きたいと思ひます。主耶蘇は此聖語の中に少くも三つの事を敎へて居られると思ひます、即ち第一は眞の弟子達は耶蘇自ら創成せられし事、第二弟子選擇の唯一目的、第三は弟子として其本務を盡すに必要なる能力の出所といふことであります。此三つのものを言ひ換へれば修養と耶蘇との關係、修養の最高目的、修養の秘訣であります。それで第一、『汝等我を選ばず我汝等を選べり且我等を立てたり』とあります。左近敎授は其新約聖書耶蘇傳の中に之を改譯して『汝等我を選みしに非ず我汝等を選みかつ汝等を立てぬ』とかいてあります、今之を希臘語より英譯しまするとNot you chose me but I chose you, and oppointed you といふことでありますが、更に眞意のあるところを明確にする爲に意譯しまするならば It was not you lat chose me as your master but I chose you as my friends, and oppointed you as my appostles（ウエストコット）といふのであると思ひます、唯に弟子等が選ばれた

る者であるといふ歴史的事實のみならず、基督と弟子の位置及職權の相異弟子等に與へられたる特權の性質と其價値をも明かに示してあると思ひます、主に在りて又主の爲めに實を結ぶ目的を以て修養を重ねつゝある我等は抑も何人であるかといふことを御互に一層深く考へて見たいのであります、耶蘇は弟子に向つて『汝等を選んだ者は我である』と仰せられました『選ぶ』――、何んたる奥行の深い根抵の確固たる捕捉力の强き言ではありませんか、『選ぶ』といふ語には『發見する』『知る』といふ意味も含んで居まいかと思ひます、光輝燦爛たるダイヤモンドも岩石の中に深く閉ぢ込められて居りましては其値を發揮することが出來ません、必ずや美術家、礦物學者を俟つて始めて其眞價のある所を世に公にせられます、基督の弟子たる者は基督をヂスカバーしたのではない、反て基督に發見せられたのであります、基督に識られたのであります、エホバ神が多くの國民の中より彼のイスラエル民族を殊に選び出し給ふ

たといふこと『我等神を愛するに非ず神先づ我等を愛せり』(約壹四〇十)との言『汝等いま神を識れり反て神に識られたりと謂ふ可し』(加四〇九)保羅がエペソ人に贈りし書簡の中に基督者を以て『基督のうちに選ばれたるもの』(一〇四)となすが如き、或は保羅自身の經驗として基督がイスラエルの望を得させん爲に保羅を『執へ給ふた』と書しが如き、更にかの蕩兒の譬に於て父が其子の遠くありし時に彼を見て趨り往きし事、凡て是等の言、敎訓等を比較綜合して考へて見ますると、我等個人の宗教生活の完成に於て見逃すべからざる一大要素は、神自身が基督自からが其創成者の位置にあるといふことであります。玆に即ち吾人の基督の徒としてのヂグニチーは始まり、從つて自重自尊の精神を緩めずして謙譲の徳を完成せなければならぬことを一層切實に敎へられるのであります。耶蘇はガリラヤ湖畔にペテロ兄弟、ゼベダイの二人の子等を發見し、樹下にナタナエルを見出し、俗氣紛々たる稅關にマタイの座し居るを見て我に從へとのたまふたのであります。人靜まりて四隣寂として聲なき時唯獨り山に退き終夜祈禱に餘念なかりしは十二弟子に非ずして之を擇ばれたる耶蘇であります、吾等は自己の經驗に照して此耶蘇の選擇の深き意義を考へたことは果して幾度あるか、彼の聖保羅の如き『律法に在るところの義に由れば缺なき者』と自稱し得る殆んど完全なる品性にして、猶信徒として又た使徒として其全生涯を神の恩惠に歸したとするならば吾等の如き賤く卑き者多くの人々の中より選ばれて指導者の責任と特權を負はせられたることを保羅に比して一層眞面目に考へ又感謝しなければなりません。基督の弟子として我等各自が有する斯るヂグニチーは『汝等は我友なりわれ汝等を僕といわず蓋は僕は其主の行すことを知らざればなり』との言によりて更に其價値を增し加へらるゝのであります。基督と基督者の關係は單に師弟の關係によりて盡きて居ません、况して主僕の關係は此關係の眞義を示すものと言ひ得な

いのであります、無論一面より觀ますると使徒時代に於て弟子等は耶蘇基督の僕と自稱すると寧ろ光榮として居りました、彼得、雅各、猶太、等は之を明言して居ります、聖保羅に至りては此名稱を用ふることを最も大なる誇として居るやうに思はれます。然しながら基督の僕なる名稱と基督の友なる名稱とに殊更に思想上の矛盾があると思ふことが出來ません、一は基督に對する絕對的服從の意を示し、他は基督に對する最高の愛情を表したものと思ひます。併し耶蘇が此所に『我汝等を僕と稱はず』と言はれたることに就ては更に異なる解釋を下す必要があります、是は服從の方面より基督と弟子等の關係を說いたものではなく、普通に行はるゝ主人と奴隷の關係の單に外部的なるに比していふのであります、奴隷は主人の命ずるが儘に萬事を行ふので、其行す所の事件の眞意を知ての特權を與へられて居ません、僕は謂はゞ一種の機械に過ぎない、人格者の品位と特權を奪はれたものであります、基督の弟子たる者は神が其獨子に顯はし給ふた默示の性質と目的と範圍を識るの特權を授けられて居るのであります、吾等は唯に神と偕に働くのみならず神自が吾等を其同勞者即ちコ、ウオルカーと稱び給ふとは基督の弟子として誇張すべき最大特權ではありますまいか。使徒保羅は神は育てゝ下さる方である、使徒たるものの業は種うへるもの、灌ぐ者に過ぎない、と書いてありまするが灌ぐ者なくして種子の發育を望むことは到底不可能であります、基督と基督者の關係は外的でなくして實に內的であります、愛によりて相互の意を解し得るのであります眞に神を識り神に識られやうとするには神を愛し神に愛せらるゝにより他に途がないのであります『愛なきものは神を識らず神は即ち愛なればなり』(約壹、四〇八)との約翰の實驗は萬古不易の宗敎的眞理を最も簡潔に示はした言であります、此愛の存する所に眞の友義は遺憾なく行はれ眞の友義のある所に純潔にして而も暖き友情が見出さるゝのであります、彼の詩人にして又說敎

者たるチャーレス、ウキスリーが

Jesus, Lover of my Soul,
Let me to thy bosom fly.

と歌はれたときに彼は基督と基督者との友情關係を最も美しく而も潔く現はしたといはざるを得ませんヒユー、ブラックが其顯著Friendshipの最後の章をば『最高の友情』と題して說き去り說き來つて終に其結果に到り『我等の主によりて友と稱ばらるゝこと我等の靈魂の愛人として主を識ること、主として吾等の心の中に入らしむること是れ即ち生活の意義を學び、生活のエクシタシーを實驗することである』と書いてありますが、吾等が修養の一方面は少くも此ハイエルプリンドシップを十分に養成するに努力しなければならないと思ひます。

"Tis only heaven that is given away,
'Tis only God may be had for the asking"

と或る詩人が歌つたのでありますが、基督の友にして始めて値なくして天を與へられ、祈によりて神さへも賜はるのであります。基督に選ばれ、基督より友といふ尊き名稱を授けられたる者にして、始めて使徒の職責を全ふすることが出來ます、基督は我等を使徒として『立て給ふた』のであります。使徒とは抑も何んでありますか、福音書及書翰に『遣はす』といふことを現はすに二の異なる語を用ゐてあります。一は單に遣はす者と遣はさるゝ者との關係を示し、他は唯に此の如き關係を示すのみならず特別なる命令と代表者たる者の權威を以て派遣せらるゝことを表はすのであります、使徒たるものは唯に耶蘇を眞似ぶのではありません、單に基督の教訓を學び之を世に提供するは使徒の職の全體でありません。私が米國の神學校を出る時に校長は卒業生一同に對する教諭の中に『諸子は今後活社會に出でゝ基督の道を宣傳へなければならぬ、眞理の爲に又眞理を獲得せんが爲に種々の研究に從事なさるゝであろう、主基督を世にプレゼントする是れ諸子の最高特權である、乍併唯基督を世に提供するを以て傳

道者たる者の本務を全ふせりといふことは出來ない諸子は飽迄基督耶蘇をレプレゼント即ち代表せなければならねと言はれました、吾等基督の使者たるものには傳ふべきメセージがなければなりません、此メセージは言ふ迄もなく基督耶蘇の外に何もありません而して此所に最も愼重に考ふべきことは、メセージとメセンヂャーとの關係であります、遣はさるゝ者は何を語り何を言ふべきかを定むるのでなく、メセージ其物は遣はさるゝ者の全目的と全動機とを定めなければならないのであります。更に吾等の瞬時も忘るべからざることは我共が基督耶蘇を傳ふるときに基督と我とは全然同一でならなければならないといふことであります、即ち宣べ傳へらるゝ所の基督が我が日常生活の全部を支配するに至り、始めて『われもはや生るに非ずキリスト我に在りて生くるなり』との實驗を握るのであります、斯くして我共は眞に基督を代表し、使徒たるの名實ともに完全たることが出來るのであります。（未完）

生けるキリスト

外村義郎

一體私共クリスト教の信者は、今から二千年前ユダヤの國に生れた耶蘇を生ける神の一人子と信じ又神の一人子なる耶蘇の力ある言葉及彼れの愛と同情に充た働を信ずるのである。且神の獨子は十字架上に、手と足に釘づけられ、肉を裂き血を流して、死たる事を信ずる。何故かと云へば、私共は神に對して犯して居る、罪は深くして大きく、考へれば考ふ程、自分の力では如何とも爲す事が出來ない事を思ふ故である。それ故耶蘇の罪の赦しの十字架によりてのみ赦される事を信じ、而かも十字架に死し、墓に葬られた耶蘇は四十日の間尊き働をなし、今もなほ天に居る事を信ずる。即ち三十年間ユダヤに居りて生きて働ける耶蘇を信ずるのみならず今も尚生きて居る事を信ずるのである。其れ故私は他の人より

力を得、眞の平和安心、死に勝つ希望、又献身犠牲の精神及眞の喜を經驗する事が出來る。此の生ける基督に付今三つ四つの點を考へたい。

一體今もなほ生きて居る耶蘇は何處に居るか。甦りし耶蘇は天にありて神の右にある、又二三人が心を集めて祈る處に基督は居られるとあります。或る英國の詩人は耶蘇の事につき今尙病める者、惱める者の右に坐し給ふと歌つて居る。又このやうな二三人位でなく大勢の人が心を集めて呼んで居られるので此處にも耶蘇は臨在して居られる事を信ずるのであります。又皆樣の内には未だ十分に神が解せられず半信半疑の内に彷ひ煩悶して居られ人のある事を信じますが又かゝる人々の右に基督は居られるのであります。一體皆樣は如何にしてこの樣な話しを聞いて居られるか、又この集に來られたかと云ふ事を聞けば、斯く答へになるであろう、何月の何日から大津で斯る女子青年會の修養會が開かれ案内を受けたから來た寄宿舍から又各自の家から來るべき道を通つて來た、順序として讃美歌を歌ひ、話を聞いて居ると御答へになるであろう、然し信仰を持つて神は常に自分を守り給ふを信ずる者より見れば決して自分一人の了見によらず、主耶蘇に導びかれて此處に來り、耶蘇に導びかれて讃美を歌ひ話を聞き今も尙導びかれて居る事を信じて疑はないのである。耶蘇が甦られた當時、二人の人エルサレムよりエマオに行つた其の時途中耶蘇の事を話して居た、耶蘇の復活について議論をして居た樣に思はれる。處がその人の間に耶蘇が現はれて、今汝等は何を話して居たかと云はれしに、耶蘇は私共を救ひユダヤを助けて下さる事と思つて居つたに彼は十字架上にて死し三日目に甦へつたと云ふ事だが如何にして死んだ人間が復活するか不思議だと答へた。耶蘇は聖書に就て親切に教へた。これが爲彼れ等の心は燃える樣になつた然し彼等は話を聞きながら歩て居る内に其が復活の耶蘇である事を知らなかつたとあります。私共の樣子は此れと同じで耶蘇が私共と共に話を聞い

て居給ふのであるがそれを知らないのである。然し第三に夕暮時エマオの入口に來た時耶蘇が行き過ぎ樣とするのを呼び止て共に食事をせしが、耶蘇がパンを裂き與へ給ふた時其の人が復活の耶蘇であつた事を知つた。其が誠に面白い。私共の内にも此復活につき議論をなさる方があるであらうが、耶蘇がパンをさいて下さらねばわからない。其のパンとは何であるか、耶蘇は何故十字架上に血を裂き血を流して死に給ふたか、又此十字架が私共の力では始末の出來ない罪の贖を完成したと云ふ事を知らねばならぬ。耶蘇は親切と同情を持つて良き事をしたが他の嫉妬心や其他で仕方なしに十字架に掛られたものと多く人が思ふから其の眞意味を解し得ない。然らば喜んで十字架につかれたかと云ふに左樣でもない。其の證として、血の滴る思ひをしてゲッセマネに祈り給ふたではないか。即ち耶蘇は父より受け給ふた使命を全うして行くには、これより他に道はないと云ふ事を知り自分より進んで十字架に付き給ふたのである。この十字架を知つて始めて喜を經驗し得るので、此の十字架の眞意味を知らざれば、耶蘇は今も尚生きて居給ふ事を信ずる事は出來ない。「視よ、我戸の外に立て叩く、もし我聲を聞きて戸を開く者あらば我其の人の所に就ん、而して我は其人と偕に其人は我と偕に食せん」（默示錄三〇二十）私は此言葉に就て考へて見るに、私はこの耶蘇を見たく、又知りたいのであります。然し耶蘇は私共の望に優て御自身を示したく働き給ふのであります。又私共がキリストを愛するよりも以上に私共を愛し給ふ。然らば如何にすればキリストを見これを知る事が出來るか、極簡單なる言で答へられる、これが信仰である。信ずる者の中に耶蘇は御自身で入り込み自らを現し、唯二三人の内にのみ居られるのでなく各自に諸々の經驗を爲し且喜びを與へんと望み給ふのであります。

　此の信ずると云ふ事に必ず伴ふものは開くと云ふ事である。簡易に云へば皆さんが或人を信じ其信ず

る人の前には何事も打明ける。又留守を明けて出る時は信ずる人を留守に頼めば簞笥に錠を締めなくても安心である。即ち耶蘇を信ずるならばそれに打明けねばならぬ、耶蘇は常に心の戸の外に立て音ひ給ふが故に、信じて心を開きさへすれば、直に入り給ふのであります。例へば晝戸を閉せば如何に美しき日光も入らないが、明さへすれば直ぐに入るのである。斯く云へば有難い事乍、私の樣な罪の深き者の心には如何にして入られようと云ふ人が多い。私が方々巡廻して行く時、可成進步した求道者で私は誠に罪が深いから、もう少し解つてから受洗しましようう今は余り品性が低く却て諸君の面汚しとなるからと云ふやうなことを云ふ人がある。しかし、人が病氣の時もう少し良くなつてから醫師に診て貰はうと云ふならば醫師は無用であると同じく罪の始末が自分で出來るなら耶蘇は何の必要がありましよう。私共が唯信仰をもつて心を開きさへすれば入り給ふ事が出來る。所が信仰があるにも拘らず耶蘇の宿り給ふ事が解せないのは耶蘇は心の奥深くに居り其の御聲は小さく靜かである故である。これは名高い話であるが、或一人の夫人が誘惑され墮落して、後に覺醒して主に返り主に祈りて「私が苦んで居た時主は何處に居給ひしか」と、此に答へて「汝が苦んで居たのは私が汝の心中に居た證據である」と芥子種の如き信仰あればその人に衷に耶蘇は住み給ふ。

又「私は其は解し得たが、眞の喜恩寵を經驗する事が出來ない」と云ふ人があるが、何故出來ないかこれ耶蘇はその人の心に宿り給ふが、凡て耶蘇に捧げこれに從ひ、眞に耶蘇を愛しないからである。眞に耶蘇は心の中に居給ふ事を信ずるならば、何故耶蘇に凡てを任せ、凡てを捧げ、眞に愛する事が出來ないのか。此愛の中には尊き力があり又尊き安心がある。此安心と云ふ事に就き、私が呉で海軍の軍人のみを集めて家庭集會をした時、一人の軍人が「私はあなたの敎へる宗敎を信ぜずとも安心は出來る」と云ひしに私は「それは出來ましよう、しかし同じ

安心の内にも乞食の安心もあれば内容の充實した深き安心もある」と答へたが其人はよく私の意を了解し滿足したから實にうれしく思ふた。

最後に、イタリーのアシ、のフランシスの話しを致したい。或る時フランシスが弟子と共に語れる時何を以つて十善の喜をするかと問ひしに一人「私は耶蘇を信ずるよりも辯舌の才が欲しい、一度口を開けば數千の聽衆皆感ずる樣な辯舌の力が欲しい」と。第二は智惠を持つて喜とすると第三は一度觸れゝば病人も立所に癒へ死にし者も生き返る靈能が欲しいと、フランシスが云ふに「是等は皆極度の喜でない唯主耶蘇の爲神の爲に勞苦するが即ち極度の喜である」と。キリストの爲に苦しみて得る喜を我々は確に經驗をする事が出來る。一人の獻身犧牲の精神に富み他人の靈に同情せる印度傳道に從事して居た英國人、その本國で傳道者募集の演說をして居たが老衰と過度の熱心の爲に倒れた。幸にして暫時の後人事不省より回復したが再び演壇に上り、印度に英國の政府を代表せる役人又は金を得んとて行く人は多いが同胞の靈を導くべき人はない、今これが爲に送る息子を有するものはないかと絶叫した。之を聞いた聽衆主は在ますと讃美したと云ふ事である此生ける主耶蘇基督に凡てを任かせるならば主は必ず私共の間に來給ふ事を明らかに經驗し得。又主は斯る實を結ばせんとて今も働いて居給ふのであります、二千年前のみならず、今も尙居ます主を思ひて尊き經驗をなされん事を祈つて止まぬのであります。

日曜學校の使命

赤星仙太

日曜學校が始めて起りしは千七百十八年丁度今から百三十年前、英國ブロケスターに一人特志なるクリスチャンがあつて、憐な職工達が朝から夜まで働き讀み書きをする暇もなく修養をする事は尙更出來ないので、毎日曜日に金を出して教師を傭ひ、讀み

書きを若き男女に敎へ、その內にキリストの話をした、これは即ち一つの貧民學校である、私共から見れば今日の日曜學校は必ずしも否決して貧民學校でない唯子供の魂を敎育する處である、然し日曜學校の名稱のはじまつたのはこの時からである。同校が始つてからなほ百三十年前淸敎徒が米國マセチユーセツに行つた時此の州の法律が出來、一週に一度子供は必ず精神敎育を受けねばならぬと云ふ事になつた、之も又日曜學校の始である。昔と今日と其の目的は違つても、日曜學校の眞意即ち靈の敎育は同じである。日本にても盛んになり基督敎を眞似て、佛敎にても始めた、然し此處では生花や琴、遊藝を敎へて居る、日曜學校と云ふ名が應しくないので他の名を付けたい、又日曜學校と云へば、日曜に他の讀み書きを敎へるからとて聖書學校と云ふ人もある。

普通、日曜學校の使命は年の違ひなく子供にクリスト敎主義により靈の敎育をなすので、前にも云つた様に英國より始まり米國に渡つた。然し其の數の增すに從ひ世界的となり同盟をする様になつた、丁度男女の青年會がちり〳〵であつたものが世界的に統一されたと同じである、此の同盟は丁度今より十六年前アメリカの日曜學校協會とメキシコ、カナダの日曜學校との間に作られてこれを International Sunday School Association と云ひ萬國日曜學校課がアメリカに出來たのである、而して三年毎に大會を開いて居る、二十五年前に世界日曜學校協會が成立し四年毎に會を開く事とした、去年瑞西にあつたのは第七回で日本に明年あるのは第八回である。

斯く廣くなつたが他の範圍にても大變に廣い、子供と云ふのは短き時期でなく二十五才までは子供で發達の早い女子は二十一才迄である。斯くの如く二十一才か二十五才まで敎へるのでなければ日曜學校敎育は完全に出來ない。近頃は子供のみならず大人も行つて居る、そこで日曜學校の敎育は子供時代ばかりでなく生涯を通じて居るものと云つてもよいわけである、殊に靈の敎育は短期でなく一生これを要

するのである。

子供に靈の教育が出來るか否やは長き間の問題である、イブとアダムは生れながらに罪を犯したから悔ひ改めぬ小供が如何して靈の教育を受ける事が出來るかと或る人は云つて居る。又ドッドリッヒと云ふ學者が五つになる小兒を種々觀察し、其の宗教に冷淡なのに驚き、斯る小兒に宗教の事が解かれば奇蹟であるとて、宗教々育を顧みなかつた。又六七十年前或人が悔ひ改めぬ子供に主の祈をさせるのは主の祈をけがすのであると云つた。この樣に子供の靈の教育は久しい間顧みられなかつた。四十五年前に一人の學者、子供に靈の教育を授くべき事を主張したが反對せられた。又十五年前ドーソンと云ふ人が米國に於ける日曜學校の集會にて、子供に相當した樣に聖書の話をしなければならぬと云つたが聖書を話すものと思はれて居た。日曜學校の重ぜられる樣になつたのは最近である。

歐米の學者教育家は段々子供は神に近くものなる事を認めて來た。例を擧ぐれば、聖書の中に子供が祈りて聖靈を受けた事が多く記してある、マラキ書二章十五節に子供は神の種であると書いてある又舊約の終りの處には子供の價値が教へてある、ルカ傳一章にヨハネ母の胎内にて聖靈に感じ躍れりとあるこれをある學者は、母の胎内にてキリストを說教したのであると云つた。私共は聖書の例を引くまでもなく、平均に多い、某博士の令孃或る時日曜學校より歸り「今日先生が大きくなつてからキリストを信じなさいと云つたが不思議だ」と云つた父の博士は何故かと反問されたのに「私は父樣の留守の間にエスを信じ、先日部屋を閉じ眞に神に祈つた」と云つたそうである。支那の厦門の或る宣教師は神を信ずるは子供の方が早い、子供ながらに神に依り信ずる心を有すると云つた。有名なるドーソンと云ふ人、「子供と宗教」と云ふ書を著し、其の第二章に子供の自然宗教と云ふ事を書き四ヶ條を擧げて居る。

一、子供は有とあらゆるものを生きたものと思ふ

なほ目に見ゆるものは石でも木でも皆生きて居て自分と同じく人格的であると云ふ、或る子供は其の母に向つて、何故月が自分を追つかけて來るかと問ふた。又或る小供が庭でぼんやり花を眺めて居るのを見其の母親がたづねたに「花が淋しそうだから話をして居る」と答へたそうである。外には表れないが子供の心の奥には神の種が宿つて居る。

二、子供には物を見れば其の因を知りたがる性質がある、或る子供が庖刀をもつて物を切つた、母親が指をきるからあぶないと咎めた。處が神樣の事を聞いて居る子供は面白い答をした、指を切つても神は元の通りにして下さる、人間さへも造る神樣は指一本造る事は容易いと、勿論誤つた考へではあるが此處に神を認むる美しい處がある。即ち何處までも其の因を探索する性質を有するから、從つて造物主を認めるのである。

三、子供は死を知らない、人の死などは尚知らない。故に親兄弟の死を說明しても解しない、この例は常に吾々の目擊する處である。或る子供の祖母が死んで棺に入れられ持ち行かれようとする時、其の子供は祖母は何處に行くのであるかと問ふた、母親が祖母は神樣の御側に行くのであると云つたが分らない、それで「木の下にうめるのである」と說明した「それでは神樣は、土の中にあるか」と問ふたと云ふ事である、子供は斯くの如く死を知らないこれ靈の永遠不滅を信ずる始めである。

四、子供は信じ賴る性質をもつて居る、目には見えなくても神が居たもふて、永遠限りなく吾々を顧み給ふ事を信ずる芽生を持つて居る。

依つて吾々はこれを育てゝ行かなければならぬ。持ぬ物を強いるのは教育でない、既に有する神の芽生、種があるから、これを培養し教育して行くのは母の務である、又吾々の務めであるべきは當然の事である、此の有望な靈の教育をなす時に、如何なる材料を用ふるか、最良の材料は聖書である、他にもあるかも知れないが聖書程豐富に信仰の糧を有する

物は他にない。近年子供の管理法、教授法、參考書等か多く出來て進歩したがなほ聖書をもつて最上の教科書とするのである。日曜學校の使命を全うするにはもつと聖書の研究をしなければならぬ。プラングルと云ふ人の遺書に"Our misunder stood Bible"と云ふ本がある、其中に人の誤解し易き點のみを集めて書いてある、其の表紙が又實に面白い、聖書が開かれて其半分に蜘蛛の巣が書いてある、此處に深い意味を持つて居る。「聖書は誰でも疑ふ事のなき物と云ふが自分は然からず」と云ふをもつて始つて居る。同氏は聖書の中には神の御言葉と惡魔の言葉とがあると云つて居る、又聖書を讀む事と悟る事は異つて居ると、使徒傳中のエテオピヤの寺人の話を實例として此書に記されて居る、又子供の種々の誤解せる點を々實例を擧げて記して居るが、吾々が使命を果して行く時は十分用心して誤解のない様にして行かなければならない。或る牧師の家に一人の子供があつた、絶へず日曜學校にも行き、又祖母から信仰上の話を聞いて居た、然るに惡き習慣つき夜眠らず、庭を散歩などして朝寢坊をして居た、家族の者は心配してとがめしに、「聖書に書いてあります」と答へたので尚ほよく聞いた、處がテサロニケ前書五章の六節より八節までを開き此處にかいてありますと云つた。と云ふ事である、熱心な牧師の子供然かも祖母より話を聞いて居る子供が間違ひをしたのである。斯る事は小さい事ではあるが大切である、私共の子供が日曜學校で如何なる有害な事を覺えるかも知れない、故に大に注意すべきである。

今日世界中の日曜學校の教師の六七割は婦人で未婚の女學生である、或るメソヂストの熱心なる先生が日曜學校の丸髷の婦人の教師を見たと云つて珍らしそうに雜誌にかいてあつた。かく大部分大切な働をして居るのは若い婦人である。依て一層女子青年會の働と日曜學校の働とは密接な關係を持つて居ると思ふ、他にもあろうが日曜學校は一つの大切な事業として、これを果すには種々の技能も要すが尚愛

熱心、信仰等を以つて足りない者を補ひ得て社會教育に婦人の力が貢献されて大切なる役目をしてゐる英のエレンケイや伊太利のモレテツリー等は各自の立場に於て大なる働きをして居る、單に子供の爲の働ばかりでなく日曜學校の文學上にも婦人が力を盡して居る、前にも云つた萬國日曜學課の種々の譯などは其一例である。又ニコルと云ふ人を助けたタッタード夫人は良き物語を集めて良い本を供給した此の點に於ても若き婦人の力が又大である、今日キリスト教で殘念に思ふ事は子供に讀ませる本のない事と讃美歌の缺乏である、歌と云へば何か難しき事の如くに思はれるがそうでない、或る牧師の夫人が讃美が足りないから發句でも和歌でも出來る人はどし〳〵こしらへて欲しい千も二千も作る中には良い讃美歌が出來ると云つて居られた。學校で皆様が敎へる時間が無くとも家庭に入つて出かける事が出來なくとも家にあつて子供の爲に讃美歌を作り又有益な本をかくのも又此働に大なる貢献をなす事である。

如何にして實を結ぶべきか

横田貞治

先刻讀みました出埃及紀第三章五節以下からして「如何にして實を結ぶ可きか」と云ふ題目の許に御話して見様と思ふ、神に選まれし者はまた遣はされた者であると言ふ事は先日來皆様が先生方から聞かれた事であらふと思ふ。扨先刻讀んだ聖書の中に遣はされし者即モーセがあの様な大業を終に果すに至りし理由はいづこにあるかと言ふ事を案ずると我々も今日如何にして實を結ぶ可きか如何にして選まれ者の責任を全ふし如何にして實を結ぶ價を保ち得るかと云ふ事がわかると思ふ「汝の足より靴を拔げ」是れはモーセがシナイ山にて神より給はりし第一の言葉であつた「汝の足より履を脱ぐべし汝が立つ所は聖き地なればなり」此の句の意味は單にモーセの履がけがれて居るからそれで脱げと神が言ひ給ひし單

なる一片の意味であらふか否我々は此所にもつと深き意味のある事を思ふ。今靴を脱ぐと言ふ例として舊約の他の三つの場所を參照して見度いそして靴を脱ぐとはいかなる事を意味するかを示し度い先づ其の第一は申命記第二十五章九節に「その兄弟の妻長老等の前にて彼の側に至りこれが鞋を其の足より脱せその面に唾して答へて言ふべしその兄弟の家を興ることを肯ぜざる者には斯のごとくすべきなり」と此れはある人が死せる兄弟の妻をめとる事を肯ぜざる時に其の兄弟の妻が其の人の足より鞋を脱がせ顔に唾して公衆の前にて恥をかゝしたと言ふ事で鞋を脱ぐと云ふ事は恥かゝせるとかまたは其の人の人格を無視するとか言ふ意味に用ゐられる、第二は路得記の第四章第七節に「昔イスラエルにて物を贖ひ或は交易んとする事につきて萬事を定めたる慣例は斯の如し即ち此人鞋を脱で他人にわたせり是イスラエルの中の證なりき」とある即ち地面をやりとりしたり物を交易たりする時に鞋を脱ぐと云ふ事を即ち所有權利を渡す即ち證文を渡す自己の權利の棄却と云ふ事を意味する、第三は撒母耳後書第十五章三十節に「こゝにダビデ橄欖山の路を陟りしが陟るときに哭き其の首を蒙みて跣足にて行り」云々と云ふ事がある。何故此時にダビデが跣足で行きしかダビデは其の當時はユダヤの王であつて位は無上を極め其の熱力が頂上に達した時であつた然るに彼れの愛する息子のアブサロムが彼に反してエルサレムに攻め來つた爲にエルサレムの人々は恐れ逃げまどつたダビデの樣に年若くしてゴリアテを倒した樣な英雄も時に利あらずわれの少弱なるを悲しめる時に鞋を脱いだ、即ち悲哀を表して居る。此樣に鞋を脱ぐと云ふ事には恥辱權理放擲悲哀の三つの意があるが此の三つの中に共通の點は「われを棄つる」と云ふ事即ち自己の薄弱なるを感じて自己の權利を棄つると云ふ事である、此れを今モーセのホレブ山にあてはめて見るとまことに愉快なる意味が生じて來る、幾年かの間はき來りし古き汚れし汝を棄て去れとは是れモ

ーが使命を感じた第一の言葉であつて此所にモーセがわれをすてゝ神の言葉を實現し得たのである勿論我々は自己の人格の價値は認めねばならぬ世にあつて卑屈になつてはならぬ自己の價値を淸め自己の權理を主張せねばならぬ然し同時に私共は自己を淸め自らを棄てるによつて始めて自らを强むる事が出來ると云ふ事を注意せねばならぬ、然らば我々はいづこに我れを棄つ可きか力强き社界に自己の個人性を棄て社界の行くがまゝにわれをすつべきか或は自らを弱き者なりとし强者に從ひ長き者にまかれると云ふ意に於て自己を棄つ可きか或は我々種々の境遇事情ありて如何ともなし得ず只其中にありてよくなるまで待つと云ふ境遇にわれを棄つ可きか否我々は神に於てわれを棄つ可し此所に於て最われを棄つる價値を得此所に於て古きわれをすて親しきわれを得るなりキリスト敎の歷史はわれを棄て新き主を得たる人によりて出來たる歷史であるキリスト敎以外の社界に於て如何に婦人が蔑視されたか殆ど一種の無能力者の樣に見られた同一の仕事をしても婦人は男子に劣る此れは世人男のみならず女までも認め居る點である嘗てニユーヨーク洲の或新聞に「男子より女子が優れる點あるか」と云ふやうな問題をかゝげた事があつたが其の解釋によれば女子は裁縫料理等婦人の本務と見なされし如き點に於てまで男子に劣つて居る只水泳に於てのみ女子も男子に比敵し得と云ふ事であつた、兎に角多數の人々は皆女子は男子に劣れる者であると思て居る、然るにキリスト敎の歷史に於ては是れが反對である、第一に主の御降誕を豫言した者は婦人であつた、また主の復活を見た最始の人も婦人であつた、サイロピニケに主を見出した者も實に婦人であつた、男子は主キリストの十字架に從ひ得ずちりぢりになつた時其の御最後まで傍近く居たのは婦人であつた、主が此世の奮闘中大なる慰を得給たのはベタニヤのマリア、マルタと云ふ婦人達の家であつた、福音書を見て婦人が男子以上になつて居ると云ふのはどう云ふわけであるかと云

ふに此れはキリスト教の道徳は何んであるか即ち、being でなくまた何を爲す可きか即ち doing でもない只「われを棄て得るか」と云ふ點にあるからである、此れ實に女子が陰に陽に大なる事業を爲し得た理由である、主はわれの足に香高き膏をそゝぎし女を見て「我まことに爾曹に告ん天の下いづくにても此の福音を宣傳らるゝ所には此の婦の爲し事もまたその紀念の爲に言傳らる可し」と仰せられた、福音と共に女の事業が傳へられる何故此所に女の力があつたのであるか此れ即ちわれを棄てる事が出來たと云ふ點にある。新約聖書を見ると如何にして實を結ぶ可きかと云ふ事について擧げた所が三ケ所ある、第一に馬可傳の第四章二十節に「沃壤に播れたるものは人道を聽て之をうけ或は三十倍あるひは六十倍あるひは百倍の實を結ぶなり」と云ふ事がある、受けると云ふこと即ち此の場合では主の福音の根を深く受ける自らをくだいて只々神の福音を受け入れる斯くすれば自然と芽が出て來る此れは特に未が信仰の道に這入つて居らぬ方々に申上たい、受くると云ふ事是れが特にあなた方の特徴である此の受くると云ふ事によつて始めて眞に神の力を感ずる受けざるに於ては神の御言葉も砂や塵と何の相異もない福音も受入れなければ何の意味もない神の榮は受くる事によつて始めて現はれる、ポーロは「それ十字架の敎は沈淪者には愚なるもの我儕救はるゝ者には神の能たるなり」と言つて居る我儕は實際深く神の言葉を受入れることによつて始めて善き實を結ぶ事が出來る、然し中には此の譬にもあつた如くに早く受て早く枯れた石地の樣ではいかぬ、我々は淺い石地であつてはならぬ地の下にある自我を充分に碎いてしまはねば駄目である、神の求め給ふものには供物ではない我々の碎けたる靈である、第二は約翰傳第十五章四節の「汝等われに居れさらば我またなんぢらに居ん枝もし葡萄樹に連らざれば自ら實を結ぶこと能はず汝等も我に連らざれば亦かくの如ならん」枝が如何に力んでも幹を離れては實を結ぶ事が出來ぬ

自らをわすれて大なる幹に自らを結ぶ時に實を結ぶのである、此れは主エスに對する弟子達の態度であつた、主は弟子を呼び給ふ時に弟子達にかくあれかし、又はかく爲せよとは仰せられなかつた、「我れに從へ」と言はれた、賤しき漁夫でも罪を犯した稅吏でもかまはぬ單に主に從ひ得る者でありさへすればよい此れが實に實を結ぶ上に大なる點である、女子には何かを爲す力を與へられなかつたにせよ婦人には主に從ひ得る力を與へられた、マリアやマルタを見てもよしわかる。

第三は約翰傳第十二章二十四節に「誠に實に爾曹に告ん一粒の麥もし地に落ちて死ずは唯一つにて存んもし死は多くの實を結ぶ可し」とある、此の場合に於て實を結ばんとせば自らが死なねばならぬ、此の意味の中には神の爲に身をすつると云ふ意味もあるが而し此所にもつと精神的の意味がある、即ちいくら自ら地に落ちても若し其まゝで自らを碎く事を知らなければ矢張りいつまでたつても一粒の麥である、自らを碎くと云ふ事は自らをすてゝ神を愛する事即ち神に近づく事である、此れは隨分婦人に當嵌るが而し男子にはなか〳〵其の點まで達する事が出來ない、高き香膏を主の御足に注いだ時にユダは、「此の香膏を何で銀三百に賣りて貧者に施さゞる」と理屈に流れてまづ主エスを愛し奉る事をわすれた、然るに此の婦人の代表者とも言ふ可きマリアはそうではなかつた彼女は先づ主を深く愛し奉つた、此れが實に婦人の偉大なる點である、主エスが十字架につき給ふ前夜、弟子達に懇々として諭し給ふた時すら弟子達の議論の重なるものは誰が彼等の中で大なるかと言ふ事であつた、男子は自ら偉大ならんとする野心に燃えて居る併しかゝる間に婦人はかげにあつてひそかに主の御爲に淚を流して居た、婦人は表に立つて男子の樣に働き得ねど自らをすて他を愛し得る點は男子の大に學ぶ可き點であると思ふ、主が復活後ペテロに現れ給ふて行て實を結ばしめ樣となされた時の御言葉は「ヨナの子シモンよ汝これらの

者に過て我を愛するか」と言ふ御言葉であつた、而して後に「我羊を飼へ」と仰せられた。

併し此所に留意せねばならぬ事は我々は少々キリスト教の事がわかつて來ると無暗に羊を飼ひたがると言ふ事である、併し最も大切なる事は先づ自らが充分に神を愛し居るかどうかと云ふ事である、かくして神を眞に愛し得て後に始て羊を飼ふ可きであるかくて我々は眞によき實を結ぶ事が出來るのである

「汝の鞋を脱げ」ホレブ山に登りし時のモーセは一介の平々凡々たる羊飼に過ぎなかつた、而しかれが鞋を脱いで棄てた時にはホレブ山はユダヤ教を出した偉大なる山モーセは神の遣し給へる大豫言者となつた、ペテロに於ても同様であつた、主に呼ばれて從ふまでは單純なる一介の漁夫であつた、併しエスの我れに從へとの御聲をきいて網も舟も總てをすてゝ從ふた時に始めて人をすなどり得る者になつたのであつた、從ふと言ふ事是れが第一、主をうくと云ふ事是れ第二である、次に主を眞に愛し奉る事是れ第三である、かくて我々はよき實を結び得るのである請ふ先づ皆「われの足より鞋を脱げ」

個人傳道

木岡甲子男

私は今姉妹方の祈り深い心の畑に播き言葉の種を蒔きますが、どうか、深切な培養によつて花を開き實を結ぶ事が出來れば福であります。殊に先日皆様が山室先生より此個人傳道の事に就て御聞きになつて居られると云ふ事は、神の御導で、どうか山室先生の御話を思ひ起されて私の拙い話に結び付けて考へて戴きたい。

馬太傳の始めの方を御覧になると、耶蘇が始めて傳道をされて「天國は近けり悔改めよ」と仰られた事と、又シモン、アンデレ等の弟子達に向つて「我れに從へ」と仰せられた事とが載つて居ります。然も、此數名の弟子達は皆詰らぬ漁夫でありましたが

主は斯る人々に「汝等をして人を漁る者となさん」と仰られましたのであります。

今日、日本の各所に行はるゝ集中傳道或は擴張傳道と云ふものは、喩へて見れば網で魚をとる様なもので、私が皆様と考へたいと思ふ個人傳道は糸を垂れて魚を釣る様な方法で御座います。一體、私は釣の事に就ては餘り經驗もありませんが、聞く所によれば、魚を釣るには先づ潮時を知らねばならぬ。又た天氣の晴曇に依つても魚の居所に變化があるといふ事であります。風が強くて波が高い様な時には魚が下の方に居るとか、又川魚であると瀬の流れの早い所を上るので如何しても魚は瀬に集るとか、此様に魚の通る魚道といふものがある。魚を上手に釣る人は斯る點に能く注意し、且餌を撰びますから、極僅な時間に數十尾の魚を釣る事が出來るのであります。此に反して、それらの點に留意致しませんなら一日掛つて僅かに一二疋の魚も釣り得ぬといふ譯であります。人の霊を釣るのと同様であります。人の精神狀態が晴れて居るか曇つて居るかを能く考へて其に應じた處置を取らねばなりません。つまり傳道と云ふものは只言葉丈で出來るものではありません精神上の潮時魚道を辨へ、且忍耐して掛らねばならぬものであります。

私の知人に毎日求道者に二枚づゝ端書を認めて居る人があります。何十人あるか知りませんが、其の求道者が救はるゝまで熱心に續けて居ります。又或人が死んだ時に其の人の枕元に人名を書た札があつた。其の札は手垢がしみて涙のあとさへあつたと云ふ事であります。此様に幾度となく繰返し繰り返し手垢が付く迄も其の人達の精神に注意して遂に其魂を神の御許に連れ來る、此が眞の傳道であります。傳道と云ふ事は丁度保險會社の勸誘員の様なものであります。諸方に行つて熱心に勸誘する、或時は玄關拂をくはされる。或時は留守を使はれる。併し熱心は恐しいもので遂に其人を加入せしむる様になる私が嘗て或るニューヨルクの保險會社に加入して居

たが都合によつて解約した事があつた、所が、其會社では其はあなたの大變な不利益であるから是非元の樣に復する樣にと再三再四言つてよこした。自分は都合上解約したのだから復舊はせなかつたが飽迄被保險者の爲を圖る其會社の處置に感服したのであります。一體勸誘員は手數料を得ようとして働くのでありますが、矢張り被保險者とか其の會社等の爲を少も思はぬと云ふと、いくら熱心に勸誘しても結果はよくないのであります。靈の事も同じであります。私が臺灣に居りました頃、日曜學校に子供の出席して居る家を訪問した事があります。其家の者は頑固でなか〳〵傳道も出來なかつた。後年に至つて其の家の姉妹達が信者になつてから、手紙をよこして先年あなたがよく御訪ね下さつた頃は、隨分失禮な事もいやな事も申上ましたが、今信者になつて先年の御恩が感ぜられます、決して御恩は忘れませんと言つて來ました。如何に厭がられても嫌はれても眞に其の人の生命に同情を有つて祈り、又働けば必ず花が咲き實を結ぶものであります。

私は富士見町敎會の信者ですが私の敎會に有愛會と云ふ一の會があつて第一と第三の日曜日の禮拜後に有志の者が集つて祈禱の後に或は單獨或は二三名が一所になつて各の志す人を訪問して居りますが其の會の働の結果の一二を話して見ませう。

私が訪問した中に一名の婦人がありました。此の婦人の夫は信者なのですが、此の婦人は中々頑固で信者になられません。此の婦人は水戸の方でありましたが、夫が祈つたりするとあなたが信者だから貧乏計りして居るのです、其上私が信者になつたらもつと〳〵働きますなんて笑つて居た位でした。併し此婦人が一旦悔改て頑固な心が碎れてからは丸で生れ變つた人間になりました。信仰生活に入つてから間もない時の事であります。七十歳計りの老人が來て小供が大酒呑で其日の生活にも困つて木賃宿に居たが、其も出來ぬ樣になつたから、どうか助けて吳れと言つた。此婦人は熟々と考へて此は神の御思召であらうと思つて垢じみた汚ない老人を親切に世話をして此も神樣への御奉公であると云つて居た。殊に其時は非常に財政上困難して居つた際で子供は百日咳に罹て其上に夫は職を失ふと云ふ際であつたけれども、少しもひるまなかつた。家は牛込區で六圓の家賃の家と言へば大底想像が付ます、狹いきたない家です。所が、丁度其の時に家主から建直すから立退てくれと云はれた。六圓の家賃さへ充分に拂はれぬ位、まあ、どうしたらよからうかと隨

分困つた。併し安い家の與へられん事を二週間も屆せずに神に祈つて居た。すると、丁度今度の博覽會で其出品人の一人で十年計り以前に廣島に居た頃に一圓二圓と時貸した金子が積つて二十圓にもなつて居つたが、其後別々になり、其人は資產も出來て何時か返金したいと思つて居たが文通もないので實は困つて居た處に、其夫が突然出逢つて其金を受けたのであります。神は何萬人と云ふ人の中に偶然にも此二人を逢はせ給ふた。妻は夫から其の話を聞いた時には財政上に苦しい時であるからなにか不正な事でもしはしまいかと憂ひたけれども、翌日になつて其本人が訪ねて來たので全く安心して總てを神に感謝した。其翌日小供を學校に送りながら歸つて參ると空家がある。入つて見ると綺麗な善い家で家賃も十圓だけれども九圓にまけると云ふ。大に喜んで早速借たと云ふ譯で、其の婦人は今種々の困難があるが總て神が與へ給ふとの確信を有て進んで居る。

友愛會の一の訪問が神の御導きによりて、斯まで一の家庭に神の惠が充實する樣になつた事は感謝すべきであります。

又私が十年程前に臺灣に居た時、天幕傳道と云ふが家の表で行はれた。或時話が終て求道者を募た所が、其中に一名の婦人があつた其人の事情を聞くと、父が異ふので家庭に大分苦痛があるらしい。其家を訪問すると、父親はいつも表から入ると裏に逃げると云ふ風で、殊に其の親は、もと寺から出た人故、どうしても娘の洗禮を受る事に贊成せぬ。丁度其の父親と云ふのは幸ひ警察の小使なので、警部に賴んで家に居つて貰つて訪問した。丁度其時は受難週の金曜日であつて、自分は大なる使命を與へられた樣な氣がして出掛けて行つた。行つて見ると、母親は自分の可愛い娘は洗禮を受けたいと言つて三晩も泣き通して居りますと云つて居る。自分は其父親は僧家の出であるから、佛の方から話して行つた所が大變に立腹した。娘は隣室で泣いて祈て居る。自分も祈つてどうか洗禮を受けさせてくれ實際かあい相ではないかと言つた所が、案外にも父親が受洗を承知すると云ふ、娘は本當かと嬉泣に泣く、本當に嬉い事でありました。實際世の中には斯る事が隨分多い。もう一つ例をあげ度い。只今鵠沼の夏期家庭學校に來て居られる或朝鮮の檢事の夫人である石原氏に傳道されて夫の出張中に內所で洗禮を受けられた所が、夫なる人は大の基督敎反對であるから大變に怒られて、敎會に行く事を止むるは言ふ迄もなく、聖書や讃美歌まで取上げてしまつた。其後病院に入院して居つた際に聖書だの讃美歌だのを有つて居たのを夫に見付つて、ストーブに入れて燒かれた事もあつた。併し、それでも或る姉妹の熱心なる同情に勵まされて、信仰生活を續けて居る自分も始めから此方は何か憂のある方であらうと思つて居たが、食事の際に一言言つた事が、大なる慰となつて淚ながらに右の次第を話された。

すべて傳道と云ふ事は自分の靈を他の人の靈に與ふる事であります。人の靈を救ふと言ふのには其の人の靈に淚をこぼす事であります。熱帶では椰子の實に水がたまつて居る熱い時に呑むと、甘く冷くつて大變においしい。此の實がよく細工などされて、床の間などに置かれて居るが此樣に固いものでも水

につけて置くと芽が出ます。人間の靈も同じ事化粧して床の間にのせて置いたのでは芽が出ない。如何なる乞食の子供胸の中にも神の子たる素質はある。之を捨てゝ置くから芽が出ないのであります。鐵橋の基礎を造るのに、今は鐵の輪を開はめて、其の中の泥とか砂とかを掻き出すと鐵の重みで輪がだんだんに中に這入つて行く、漸次に鐵の輪を繼足して何十尺か充分な深さ迄も這入つた所で、輪の中にコンクリートを注ぎ込むのださうであります。私共の信仰も泥や砂を取り去れて鍛練された信仰の根を下して居れば、どんなに苦みまた十字架が來てもびくともしない。個人傳道は砂とか泥とかをかき出して人の靈に神の言葉を滿すにあります。最後にもう一つ御話し度い事があります、其は或能樂の先生が其の息子に世を讓らねばならぬ樣になつたが、其の息子には未だ如何しても鼓の音が出ないので、息子も大變に苦心して居つた。所が、或日其の息子が一人で鼓を打つて居ると、下女が臺所から飛んで來て「若檀那もう御許しが出ませう」と言つた。別に氣にもとめないで居ると、親か其日に息子に向つて言ふには「お前も大分音色が出て來たから近々に世を讓る」と言つた。息子は大變に下女の言葉を不思議に思つて如何して分つたかと尋ねたら下女が「大檀那の打たれる鼓はいつも臺所の釜に響くが若檀那のは響かぬ、所が今日打たれたのは釜に響いたから、是では近日に御許が出るなと思つた」と答へたと言ふ事であります。之は此人の打つ時に全心全靈を注いで自分の靈を打ち込んでやつたので此處に生命があつたのであつた。私共の個人傳道にも眠れる靈を呼び起す事が出來る樣な生命がなければならぬと思ふ。

私共もエスがサマリアの女の心の底をつかれた樣に他の人の心をつき得ねばならぬ。常に愛と同情と涙を以て事に當らねばならぬ。修養會の格言にもある樣に私共選まれた者は遣はされた者であります。今日の日本を將來に於て健全なる國家となすは、實に我等選まれし者の責任であります。どうか私共は

人の靈を救ふによく潮時を考へ、また少さき一輪の野邊の花が詩人の心を動かした樣に私共も眼を開いて少さき靈の爲に祈り且つ働かねばなりませぬ復活されし主は弟子に舟の右に網を打てよと言はれた後に、今得し魚を少し持ち來れと言はれた。私共神の前に立つた時に主より今得し魚を持ち來れと言はれた時に喜んで主の御前に持ち來る事の出來ます樣に全世界にも替へ難き靈を救ふ爲に熱心に働きたいものであります。

衞生法

井上友子

暑くなると內臟の諸機官がだれて來て働がにぶります殊に只今の樣に流行病などのある際は一層衞生に注意される事を望みます。

先づ第一に飲食物に注意をして頂き度い飲食物に附着する黴菌が口中に這入つて種々の惡病を發し易い、日本の料理は餘り煮ると形をそこねると云ふので生煮の物が多い此れは身體にはわるい、殊に刺身（中でもまぐろなどの）は腹の弱い人など餘程注意せぬといかぬ、野菜類は新鮮なものを淸潔にして用ふれば餘程害は少ない、夫れから水に注意して頂き度い、大都會などで水道の引いてある所の水は比較的安全であるが井戸の水は危險である、殊に田舍などでは井戸側で洗濯をしたり甚だしきは病人の用具などを洗ふ事がある此れ等からして井戸の中に黴菌が這入る事があるだからもし水が欲しかつたら一旦煮沸したものを用ゐるがよろしい生水は身體の丈夫な時などさわらぬ時はさはらぬが然し身體が弱つて居る時など其の水に黴菌を多く含んでる時などは必ずさはる。

第二に注意して頂き度いのは寢冷の事でありますあつい時はどうしても寢る時に蒲團などはぎ易い爲に風邪などに犯され易い、寢る時はいくら暑くつても必ず腹部になにかまいて、被る物は餘り暑い時な

どは厚い蒲團などは却つてかけない方がよろしい。

また暑い時は氣溫が高いので身體もあつい樣な氣がし氷水などを呑むが、私共の內臓は割合に冷えて居るものであるからかゝる時に氷水などを餘りのむと內臓の働が鈍り腹をわるくする、夫から旅行をする時など汽車中で辨當を買ふ事があるが、あれは此れから先は危險であるからなるべくは餘り買はぬ樣にした方がよろしい、私の知人に東京から鎌倉まで旅行して汽車の辨當を食べてコレラになつて死んだ人があります、出來る事ならば汽車の中の辨當は買はない樣にすれば一番よろしう御座います。私は皆さんに辨當としてはパンをサンドウイツチにするなり或は其まゝでなり用ゐられるか、又は御家から持つて行かれる樣にするとよいと思ふ、また夏分になると汗が出る其所へほこりがついたりまた電車などで吊り革などにつりさがるなど隨分と手はきたなくなる其の樣な手で直に食物を食べる事は大變に危險であるから食事をするまへには必ず手を洗ふ事もし汽車の中などで手を洗ふ事が出來ぬ樣な場合には一の豫防法としては六十倍位にときしアルコールを常に持て居て食事するまへ或は菓子等を食するまへに一寸手をふく樣にすると大變によろしい。

第三夏分に一番恐ろしきものは蠅であります、此れは傳染病の媒介者としてまことに恐ろしきものであります、外國などでは日本でペストの豫防に鼠狩を奬勵する樣に蠅狩を奬勵して居ります。出來る丈蠅を殺す樣にし食物には皆蓋をかける樣にす、また或方は食事が出てもなか〳〵食べぬ方があるが食事は出來たらなる可く直に食べた方がよろしい、夫れから腸胃をわるくした時分には無理に食物をとらぬ方がよろしい一二度位食事を拔いたとて決して身體は弱るものではありません、但し餘り長く此の樣な狀態が續く時は消化藥をもらつて食物は極々消化のよいおもゆ、玉子、豆腐などを食するがよろしい。生玉子は消化がわるくはないが此れを御飯にかけて食べるのはいけない、白味に御飯がつゝまれてよく

かむ事が出來ぬ從つて消化に必要なる唾液が食物に運入らぬからわるい、で只今申上ました七つの事がらをよく御守りになると腸胃を害しても大した事にはならぬ。

此れから二三療治の事を御話し致しませう、夜の食事も甘く頂き夜寢る時も何ともなかつたのが夜中に急に腹が痛むだり何かする事がある、此れは前夜に食べた食物か胃に停滯した結果起るので此の樣な場合には先づ胃に停滯してる食物を出すのが一番よろしい、其れには先づ口中に手を出來る丈深く入れるか、また此れでも駄目な時には湯を厭な加減のぬるさにしてコップに入れ食鹽を入れて呑む、かくすると大底は出てしまふ、またからし湯でもよろしい此くした後に懷爐でも入れて溫めて靜かにして居ると大底はよろしい、またまれでも痙攣的に痛む時は芥子を食用に用ふるのより少々固めにときて出來る丈よりくり、紙に一分位の厚さにのべます紙を一方につけ、どこからもはみ出ぬ樣によくつゝみて胃の痛む部分にのせ少しヒリ〳〵して暖くなり始めてから十五分より廿分位眞赤になつて堪えられぬ位を程度にして降してあとに何か柔き布をつけて置くと大底はおさまる、此の樣にして後は食慾がなければ食べぬ方がよろしい。また食物がほしければ葛湯とかおも湯とかを食し置き漸次にかゆを食する樣にした方がよろしい、また少し腸がゆるみて下痢などする時に急いで買藥などで止めてしまふ人がありますが、あれはいけません、夫は下痢は止りましても出さねばならぬ不潔物が腸に停滯するので熱を出す事があります、で此の樣な時には下痢をとめずに「リチネ」一名「ヒマシ油」と云ふ油藥を小サジならば四盃位テーブルスプーンなら一ぱい位飲んであと靜かにして居ると四五時間經つと通じがあつて腸をきれいに洗ふ事が出來ます、こうして置いて懷爐を當て食物をひかへ目にして居ると直ります、何うも先づ物を煮ると云ふ事は消化の第一歩であります粥などもとろ火にかけて二時間位經つたのを用ふると一

番消化がよろしい、日本では粥と云ふときつと梅干を食べねばならぬ様に考へてる人が多いが此れは考物です、梅干の様にすきものはます／＼腸をゆるめますから、また暑くなるとよく身體がだるく腹はすいてるが而し食べて見ると食べられぬと云ふ事がありますが此の様な時は何か少し刺戟になるサイダーの様な物を呑むとよろしう御座います、此れは昨年も申上げて大變に助かつたと云ふ方々がありますから厭な話と思召す方もあるかも知れぬが醫者の方から云ふと大變に大切な事について申上る。

　腸を清潔にすると云ふ事は大變に必要な事で夫れには便通をよくする事が非常に必要であります、或人は習慣だからと言つて五日も六日もなくつても平氣で居られるが此れは大した間違です、よく私の所などに大變に肩が張つて胸だの脊だのが痛むが肋膜でないかなど丶悲觀して來る人があります、其の様な人に通じがありますかときくと十日位もないなどと言ふ事がありますので其の方の藥をやると其の肋膜も肺病も直に直つてしまつたなど丶云ふ滑稽な事もあります、便秘からして盲腸炎などを起す事もあります、少くとも一日一回位はある様な習慣を付けて頂き度い、排出さる可きものが出ずにまた内に吸集されると中毒を起す事もあるし、又いつまでも腸にたまつて居ると腸の皮が縮まらずに居るので彈力を失ふて習慣上に便秘する様になる、で出來る事なら藥によらずに便通のある様にした方がよろしい、此れには毎朝コップに一ぱい位づ丶湯さまし、鹽湯或は梅干を入れて湯を呑む様にする、其他、夏密柑林檎、桃等の果物等をつとめて多く食するとよい夫から肉類を少くして野菜を多くするとよい、此の便通の習慣は赤兒の時からよくつけて置かねばいけないから殊に皆さんの御注意をうながして置きます。

　どうか私共出來る丈注意して神様より與へられた此身體を充分に大切にして神の御爲によき働をなし度いと思ひます。

ひとりぼつち後篇

河井道子譯

第四章（つゞき）

ラ氏は姉妹の方を向き往事を繰返し如何にベテーが愛犬と自分との石膏を拵らへて貰ふ時に瞬もせぬ程身體は靜にしてゐても、舌丈は一生懸命に活動して居たと云ふを聽た彼女は哄笑しました、其無邪氣な聲にア氏は我知らず一寸眄顧しました。

『何時でも私は此舌の爲に大難儀をしますのね、姉さん』

『卿は御咄しする前に云ふべき事を考へないで、喋舌り出すからですよ』

『氣取りやさんか說教者なら一々前以つて考へて云ひましよふが、私は――』

『マレー』と夫人の聲『あの自助奬勵會の報告を持つて來ておくれ』

『此會は自分で自分を救ふと云ふ、よい會で餘り人に依賴しなくなる方法に出來て居ります』

と夫人は語つて居ります。

『併自分を自身で到底助け得ぬ者も御座いますが』

『然でしようかしら、私の經驗に由りますと』とて喋々と說明が出る其側にベテーは例の通り自己流の意見を吐いて人を助くるには會など組織せずに個人が昔風の施し方をするがよいと主張する、今にも大議論が起らんとする矢先にマレーが報告書を持つて來たので靜まりしは幸でした。最早歸らんとて立上りしアランデルは、

『奥樣御氣分の宜ろしい時に御令孃方と御一所に一度宅に御光來て下さい粗飯を差上て私の書齋を觀て戴き度う御座います、私は一度其中に這入りますと外の世界を全く忘却て仕舞います』

辭去る客の後姿を見護るベテーの心中にはアランデルが充滿て彼の一言一句が繰返されてゐます彼の清朗な音聲、誠實な打明けし眼光、加之時々閃く談識は生れながらの嚴格な彼の風貌を和げました、恁

麼しても様子から見ても、會話から推ても人知れぬ苦痛や激情が潜在して居るとは思はぬが、又野原で煩悶して居た其顔もベテーは忘れられません。

『まだ獨身者！』と處女は獨言『あの立派な古風な煉瓦邸宅の持主で何の不自由もなき身分に、どんな心配があるのかしら、禮儀として乍麼事ラ氏にでも問ふ事は出來やしない、マレーには此人が先日の人と告げまい、先方で私を見覺てゐなかつたは何よりの幸』

二人の訪問者は靜朗な空を戴き歩みながら、ス夫人の昔ながらの美貌や娘達の母に似ながらも又違ふ點やベテーがラ氏の御秘藏なことを談り合ひますと

『座敷で貴所が抵抗の出來ぬ厄運と云はれたのは私の今の境遇に同情の言葉として嬉しく思ひました、實に私は祈の力を信じ神に頼りますが、或場合には惡の力が私の靈を四方より攻めつけ信仰も壓潰されないかしらと思ふ點までの試練にあひます』との言葉にラ氏は、

『其が壓潰されぬから實に感謝だ、眞の信仰は行手も信頼も皆捲攫はれた暗黒に於て試練され其で崩壞れぬものだ。

若紳士は俄に立止まり脱帽して天を仰ぎました、軈て、

『今夜私は自分の生涯がかく〳〵になれたのであつたらふが現在では最早駄目と云ふ天來の聲を聞きました、貴兄の奬勵は難有う』

ラ氏は只一人家路を辿りながら、

『チエラードはまだ若から困難辛苦も永くは心配になるまい、健康と快活な性質と堅固な信仰で勝利を來すは容易だ』と云ひましたが若し其夜友人が書齋で彼處此處歩きつゝ眉を顰め、拳を固め祈に脣を震して居るのを視ましたがかく容易には判斷しませんでしたらふ、一睡もせざりしアランデルは曙光窓に映ずる頃、新鮮なる空氣に優しきばらの芳香あるに氣付き思はず前夜の無邪氣き處女の麗姿と、美しき歌の聲に馳せました、急ぎ窓より手を伸べて壁に匍

匂る薔薇を摘り、

我眼はたゞに打眺む、我手及ばぬ蕾ばら

と歌ひし唇邊眼邊には優しき微笑が浮んでゐました。

和歌

年ごろ相馴れて召し使ひなどしける女の、病みてにわかにみまかりにける。報をきくに胸ふさがりぬ。ありし世の彼女が情を思ひつゞけつゝ、なく〳〵よめる。

辻村靖子

いつる息のいらすなりつるそのときを
しらねはわれは談り笑ひける

今日のみの命としらで
しに行かむいのちと知らすいけるかきり
事へむと云ひきあはれその子の

彙報

●第九回夏期修養會

日本基督教女子青年會主催第九回女子夏期修養會は、豫定の通り、去る七月二十一日午後七時より神奈川縣浦賀町大津なる勝男館に於て開會したり。是より先、委員は會場に出向し豫め準備する所ありて出席者を待受けしが、正午頃より來會者陸續し、開會前申込受附数百五十名に達し、前年に比し頗る盛況を呈したり。

二十一日午後七時より開會式。委員長井深花子夫人司會、讃美祈禱の後、同夫人の歡迎の辭及報告等ありて式を終へ、一同希望と祈禱の心に充ちて第一夜の眠に就きたり。

講演 翌二十二日よりは豫め定められたるプログラムに據り毎日聖書の組の聖書研究及講演あり。(其演題氏名は前號に記載せしに付略す)唯遺憾なりしは新渡戸博士不慮の遭難にて來會さるゝ能はず、從て同博士の講演を缺くの巳を得ざるに至りしことなれども、幸にして笹尾粂太郎先生に請ふて「最高の友」てふ講話を聽くを得たるは一同の滿足する所にてありき。

聖書の組 何れの修養會に於ても聖書の研究には特に力を用ひ、其功果も亦顯著なるものありしが、今年の聖書研究は例年に比し格別に優る所ありしが如し。組別は四組なりしが何れの組も三十名乃至五十名の出席者ありて、敎へらるゝ先生も、之を聞く生徒も、皆ひとしく聖靈に滿され、熱心に研究し、大に信仰の覺醒を與へたり。別けても求道者の組は外村義郎先生の擔任なりしが、求道者のために盡力され

し結果、洗禮志願者十名を出したるは感謝に堪えざる次第なり。

夕陽會と早天祈禱會　二十二日午後六時半より會場近き海濱に於て夕陽會を開く、大谷ろく子姉司會せらる。翌二十三日早天祈禱會は廣岡淺子夫人の司會の下に開かれ、我が國家社會の問題に就て祈る。二十四日夕陽會は大川喜代子姉司會にて官公立學校及師範學校などの宗教的方面に門戶を開放するに至らん爲に祈れり。二十五日早天祈禱會は㶚見玉枝姉の司會。二十七日早天祈禱會は大谷久子姉司會し、特に新渡戶博士のため、官公立諸學校及求道者諸姉のために祈れり。二十八日午後六時半よりは最後の夕陽會あり、渡邊ふみ子姉司會し、今回の修養會に於て與へられし多くの恩寵を感謝せり。

求道者會　二十四日午後二時より山田千代子姉の司會にて開會し、廣岡淺子夫人の熱心溢るゝ感話あり、一同强き刺戟を受けたり。

親睦會と特別會　修養會の親睦會は二十五日午後二時より、會場女中のための特別會は二十七日午後四時より何れも開會されしが、其狀況は別項の如ければ玆には略す。

閉會　淸く樂しき恵に充ちたる一週日も過ぎて二十八日夜閉會式を兼ねたる送別會を擧げ一同所感を陳べ、感謝と祈禱と共に、また、來らん年の樂しき會合を語らひつゝ會を終り、翌二十九日は朝早く起き出で、互に名殘惜まるゝ手を握りて各歸途に上れり。

◉電報と書翰

今回の夏期修養會のために電報又は書翰を寄せて祝意を表し或は敎示を垂れさせられたる方少なからざるは一同の深く感謝して止まざる所なり、玆に一々その全文を揭載する能はざれど、今その二三を擧ぐれば

▲新渡戶博士よりの來電（盛岡病院より）

フサン　オユルシヲ　コフ　シウヨウノ　サイコウ
ノ　モクテキハ　シウケウニシテ　シセイノ　イミ
ヲ　カイスルハ　シウケウノ　ホカナシ　ト　シン
ズ。

▲木岡甲子男氏來翰

拜啓神の恵は最早峠に登りつめ候事と存候、此度御來會の諸姉妹が女子靑年會の機關雜誌に同情を垂れさせられ來會者が每月一部づゝ購讀者を勸誘相成候はゞ一ヶ年間千部以上の讀者を增加すべく又現在の千數百名の讀者が九月特別號により感ぜらるゝ處ありて神と女子靑年會の爲め特別に働くべき決心を以て一名一部宛勸誘する事を實行せられ候へば更に購讀者を倍し加へ本會に神の祝福加はるべく存候、右小生の微意の存する處可然機會に表白せられたく存候　頓首

鵠沼にて

▲木岡甲子男氏獎勵の句

個人的傳道は斯くあれと百數十名のうるはしの少女に御傳へ被下度候。

家　每　に　聲　の　生　き　た　り　勝　男　ら　り

▲森村市左衛門氏來翰

拜啓昨日は誠に幸福なる淸き御集りに接し我々如き凡俗も皆樣の高きうるはしき精神の爲大なる感化を與へられ夜中も幾度か思ひ浮べ皆樣の將來を思ひ我國婦人界の爲偉大なる光輝を發するであらう又同時に皆樣の責任重大なる事も想像致し喜びと共に御苦心も多から

んと存上候。益々御健康に御奮勵被下度嬉しさのあまり御禮迄如此早々頓首

▲其他氏名を掲げて謝意を表す。

ミス、タットネ（英國）　渡邊百合子氏（英國）
加藤たか子氏（米國）　城戸順子氏（大連）
青年會同盟本部男子部（東京）　三好まつ子氏（大連）
三谷民子氏（東京）　横澤つぎ子氏（札幌）
陶山よね子氏（東京）　藤田貞子氏（横濱）
綿谷禮利子氏（東京）　岡山はな子氏（秋田）
高水はつ子氏（臺灣）　佐藤[illegible]子氏（越後）

●親睦會

廣き勝男館の大廣間は、委員長始め委員諸先生方の御丹精によりて、美しい百合花や笹にて飾られて居る。天井の四隅から四隅へ、中央を交叉して紙細工の飾が吊されて居る。えも云はれぬ混き樂しき情合に彩られた此室内は、何となく心地よく感ぜられた。之れぞ女子青年會夏期修養會の親睦會場である。豫定の如く七月二十五日午後二時より、各學校其他團體の諸姉は、各校旗やら團體旗やらを持ち「もし〱龜よ龜さんよ」の歌を歌ひながら、マーチに合せて定めの席に着き、愈開會といふ事になつた。プログラムは十四番ばかりあつて何れも嫌味のない面白い、それ〲獨特の奇抜なものばかり、今私の記憶にあるものを申上ぐれば、東洋英和の英語輪唱歌、共立の四部合唱、捜眞の幼稚園の演說及遊戲、ウイルミナ及プールの猫、同志社の近眼の歌、英學塾の活動寫眞と廿一世紀の體操、宮城の仙臺辨會話、青山女學院の秋の調べ獨唱、神戸女學院の中世紀の音樂、其他フエリス。飛入りとしてミス、マクドナルド、ミス、レーカン、ミス、ペーカーの親子丼の歌の輪唱がありました。何れも巧妙入神とでも申す程に思はれましたのは、ツク〲感服の外はありません。其が終つてから茶菓が出まして、名代の大津のお饅頭やら、橫須賀の鹽煎餅に、ムシヤ〱、パリ〱。餘興としてミス、レーガンの高砂の謠がありました。これは謠といふよりも頻や頭を掠つたり採んだり打つたりなさるゝ所は仕舞とでも申した方が可ならんと謹で拜聽否拜見いたしました。親しく樂しき此會の時の移るも忘れて語ひ合ふうちに委員より「さあ、是れからお庭で寫眞を撮る」との御言葉に一同席を離れて庭に出で紀念の撮影を終つて思ひ〱に各自の部屋に歸りしは黄昏の雲、遠き海の彼方を彩どる頃でありました。（はなよ）

●女中の會

是迄、修養會に出席するものは、兎かく與へんとするよりも受くるに急なる傾あるは、止むを得ざる傾向とは申しながら、今年の修養會には幸にも會員中の有志者相談し、會場なる勝男館の女中一同の爲に特別集會を催す事を得たるは感謝すべきの至りなり。當日は讃美歌祈禱を以て會を開き、大槻愛子、高木榮子兩姉の感話又は聖書の話ありて後、茶菓の饗應をなし青年會のピンを配與し、尙ほ下男一同へも菓子を配り、極めて有益なる半日を送りたり。後に至り女中の一人は「私が以前勤めて居りました御家の奥樣に能く讃美歌を聞かせて戴きましたが、今日は圖らず此會に御招き下さいまして誠にお懐しう存じます」と。又平日誠に不作法なる女中二人は相私語して「本當にあんなに言はれると、もう少しで耶蘇になつてしまふ所であつた」と。心なき者迄にも妙なる讃美の聲、心籠たる祈禱、理ある說話の感動を與へたる事を喜び、尙ほ來らん年も每時此種の集會を催すを忘れざらんを欲し、この會合の爲に東洋英和の諸姉の特に盡力されしを感謝したり。

●講師、教師、會員

今回の夏期修養會講師及教師、並に會員數、學校並に出席者氏名は左の如し。

▲講師及教師

山室　軍平氏　井上　友子氏　植村　正久氏
小崎　弘道氏　赤星　仙太氏　森村市左衛門氏
木岡甲子男氏　ダクター、ベーカー　笹尾粂太郎氏
横田　貞治氏　外村　義郎氏　吉崎　彦一氏

▲出席者數

總數　二百〇六名（但臨時聽講者十七名）

▲學校數及校名

總數　二十八校

青山女學院（東京）　東洋英和女學校（東京）
女子學院（東京）　駿臺英和女學校（東京）
共立女學校（橫濱）　フエリス女學校（橫濱）
宮城女學校（仙臺）　同志社女學校（京都）
神戸女學院（神戸）　ウヰルミナ女學校（大阪）
プール女學校（大阪）　青山女子手藝學校（東京）
共愛女學校（前橋）　尾ノ道高等女學校（尾ノ道）
北星女學校（札幌）　福山高等女學校（福山）
日ノ本女學校（姫路）　札幌高等女學校（札幌）
搜眞女學校（橫濱）　奈良女子高等師範學校（奈良）
水戸女子師範學校（水戸）　水戸高等女學校（水戸）
橫須賀高等女學校（橫須賀）　日本女子大學校（東京）
三輪田高等女學校（東京）　日本女子商業學校（東京）
女子英學塾（東京）　日本高等女學校（東京）

▲出席者氏名

○青山女學院
大塚　晴　宮田　とよ　石川　惠美　小方　光
小林　きみ　橋本　幸　佐藤　さい

○青山女子手藝學校
有馬ふじ

○東洋英和女學校
今田　ふみ　田邊　よし　小柴　てる　井出きくゑ
柳澤　とし　成富　あい　金丸　よし　高木　榮子
加茂　すが　青木　英子　小林　まつ　瀧澤とみゑ
ミスアレン　中島　ふさ

○駿臺英和女學校
鷹見　玉枝　永井　豐子

○日本女子大學校
安村　楨子　小山　松子　下村　辰代

○女子學院
三谷　妙子　太田　節子　木澤　勝子　羽太すゞゑ

○フエリス女學校
小川　みつ　河村　久　松永　とも　渡邊ふみ子
河村　とも　田中　富士　椎野　柳　間野　千代
ミスカイパー

○共立女學校

小山 ちゞ　稻沼 須磨　名倉 道子　篠原 けい
松本 松枝　武笠 みつ　矢野 千代　平野はつゑ
ミストレシー

○同志社女學校

野崎 正子　楪垣 都　宮川 幹枝

○宮城女學校

吉田 金代　赤尾 初音　梶原 小松　松倉 たま
及川 みつ　秋保 雨柳　渡部 秀尾　原田ことぢ
ミス、リンゼー　ミス、ハンセン

○神戸女學院

平石 貞　實生 すぎ　岩瀬 愛子　長谷川つや
渡邊喜美野　鈴木きよゑ

○ウヰルミナ女學校

佐伯 靜枝　田口 和子　森木 滿子　熊澤うし江
伊藤 よし

○プール女學校

高田 とし　畠山 やゑ　小島 まき

○共愛女學校

山口 せき　深町 こと　小泉 かね　櫻井よしの
牛田 ふじ　森村 碓女　深町 よし　千明以久子
中山 八重　黒田 治子

○北星女學校

今田 辰子　高橋 瑞穗

○札幌高等女學校

岩崎 きみ

○日ノ本女學校

辻 なほ子

○三輪田高等女學校

思地加壽惠

○奈良女子高等師範學校

加藤 貞子

○尾ノ道市立高等女學校

阪本 花代

○福山高等女學校

高折加那枝

○日本女子商業學校

石井 咲子

○水戸女子師範學校

大川 喜代

○水戸高等女學校

竹尾 惠子

○横須賀高等女學校

青木よしゑ

○捜眞女學校

千賀 光　秋津 きく　服部 久尾　松本 光
川上 ひろ　志賀 ふさ　坂本 とみ　大谷 ろく
益富 たき　高田 輝代　太田 久子　岡田 あき
小早川 都　ミスフレンチ

○日本高等女學校

白石 テル

○女子英學塾

宮澤　操　寺田　初代　岩本　昌子　荘原　秀子
植村　恵子　粕谷　よし　五味　菊子　鳥居　花子
吉見　文子　齋藤　秀子　荒木　さく　河東田きい
深見　ふみ　高野　重代　稲沼　妙　長井キミエ
太田　美子　坂本　蒜子　上野　俊　秋田芙美子
鈴木　操子

○個人出席者

高田　とし　芳尾　千代　久野　久　千本木みち
永山　チカ　芝原　スエ　小池　米子　渡邊不二野
關根　まつ　遠藤　みね　野崎　かい　遊佐とく代
齋藤　芳　門倉　ふじ　大西　絹子　大槻　愛子
ミスシャープレス　ミセスメンデルソン　ミスプリングル
石井　滋世　佐藤みさほ　岡田　ふみ　林　ふさ子
愛知　ぱま　多比羅たか　田中　きわ　佐藤　とく
川端　文子　鈴木しづゑ

（以上氏名は受付に申込記名されしものを掲ぐ）

○看護婦（三井慈善病院より）

小關　せい　岩川　孝子

○委員及事務員

井深　花子　ミス、マクドナルド　ミス、レーガン
ミス、ペーカー　小池實惠子　ミス、カフマン
河井　道子　廣岡　淺子　松宮　信子　山田千代子
大呑　久子　河口　正子

編輯より

▲本誌本號は豫報の如く第九回女子青年會夏期修養會講演及記事を掲載し八、九月號合併の心組にて紙數も増加致し第九回修養會紀念號として發行致候

▲内容は專ら講演を主とし修養會出席諸姉の手に成りし筆記記事等紙面の許す限り掲載致候猶筆記、所感等本號に掲ぐる能はざる分は次號に掲げ可申候。講演筆記は其々校閲を經る豫定なりしも編輯時日切迫のため意を果す能はざるもの多かりしは遺憾の極に候之れ講演諸先生及讀者諸君に對して御詫申上候

▲本號記載事項は修養會のものに偏したるため單調に失し體裁其他充分ならず又讀者便り、報告、聖書研究等も相省き申候然し亦不得止次第御諒察御宥恕を願上候

▲炎暑漸く去り活動の好期に入り及ばずながら本誌使命のある所に奮進仕度希望に御座候敢て讀者諸兄姉の御援助を祈上候

會員及讀者各位へ御願

我か『女子青年界は』會員及讀者各位の御高庇により漸次發達いたし居る事は委員及關係者一同の感謝して措かない所であります。尙此際是非青年女子の間に充分行渡りますやう致したいと存じ努力して居りますから、御知合の方々へも御紹介下さるやう、會員及讀者各位の一層の御助けを得て、假令一二部宛にても御勸誘を吳々も御願申上ます。

九月　日本基督教女子青年會本部

YOUNG WOMEN OF JAPAN

(JOSHI SEINEN KAI)

Volume XI | September, 1914 | Number 8. and 9.

本誌定價	
一部（郵共）金七錢	一ヶ年分 金七拾錢
海外 金拾壹錢	金壹圓廿四錢

廣告料	
一頁 金六圓	半頁 金三圓五十錢
四分ノ一 金貳圓	一行 金貳拾錢

大正三年八月廿八日印刷納本
大正三年九月一日發行

發行所 東京市牛込區田町三丁目十二番地 日本基督教女子青年會
編輯兼發行人 東京市牛込區田町三丁目十二番地 河井道子
印刷人 東京市芝區櫻田和泉町七番地 鈴木吉太郎
印刷所 東京市芝區櫻田和泉町七番地 三成舍

National Committee

Headquarters. 12Tamachi Sanchome, Ushigome, Tokyo

Mrs. Hana Ibuka, Chairman
Dr. Kei Okami, Vice-Chairman
Miss Tami Mitani, Secretary
Dr. Tomo Inouye, Treasure
Miss Michi Kawai,
Active Member World's Committee

Resident Members	Non-Resident Members
Miss Ume Tsuda	Madame Asa Hirooka, Osaka
Miss A. B. West	Mrs. Koito Saiki, Kyoto
Miss Uta Suzuki	Miss M. F. Denton, Kyoto
Miss Kita Hasegawa	Miss Michi Matsuda, Kyoto
Miss Sarah Ellis	Miss Yoshi Kajiro, Okayama
Miss Chiyo Yamada	Miss K. Tristram, Osaka
Mrs. E. W. Clement	Miss Susan Searle, Kobe

Secretaries

Miss Michi Kawai, National
Miss A. C. Macdonald, National,
Miss Ruth Ragan, National Office
Miss Margaret Matthew, on Furlough
Miss G. R. Watney, Acting General, Tokyo
Miss Mary Page, Acting Associate, Tokyo
Miss Hisa Kuno General, Yokohama